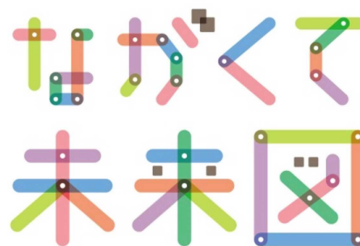


平成30年9月18日 第5回総合計画審議会資料

第6次長久手市総合計画（ながくて未来図） 基本構想素案



2018（平成30）年9月
長久手市

2018（平成 30）年 7 月 1 日に、
「長久手市みんなで作るまち条例」が施行されました。

まちうた（詩）「さかそう ながくて じちのはな」とは、
条例に盛り込みたい内容を考えるために集まった市民と職員の対話をもとに、
市民有志が、まちへの想いを詩にまとめたものです。

この詩に込められた想いを胸に、市民主体のまちづくりを進めます。

さかそう ながくて じちのはな

ボクの家（うち） 長久手に住んで 12 年
じいちゃん ばあちゃん 愛犬は
生まれも育ちも わがまちだ
そんな わが家の団欒（だんらん）で
大切なこと 考えた

じいちゃんの こんな自慢で始まった
わしらのまちの 長久手は
戦国の世からの 伝統と
清き流れの 香流川
緑豊かな 里山と
リニモが結ぶ 街並みや
万博の知恵と理想が 誇りだな

ところが ばあちゃん嘆くのは
近頃 この頃 長久手は
隣が誰だか 判らんと
気にしない人 多すぎて
関わり合いが 薄すぎじゃ
やがてくる世の 高齢化
このまま ほかっておけんのじゃ
防犯 防災 だいじょうぶか？

そこで とうさん 高らかに
このまま行けば 長久手は
子らに伝える 輝きを
失ってしまうまち になる
ひとり一人が 主人公
懐の深い コミュニティ
それぞれの価値を 認め合い
支え合うこと 目指すべし

さらに かあさん訴えて
みんなの居場所をつくるには
わずらわしいこと 多いけど
会話・対話を 繰り返す

回り道でも いいじゃない？
やってみることこそ 大切で
失敗したって いいじゃない！

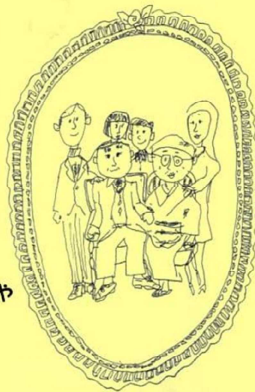
ねえちゃんとボクが 願うのは
いつまでも続く 青空と
緑と命が 守られる
住んで 遊んで 働きたい
心豊かな ふれあい
まずは あいさつ 「こんにちわ！」

でもボクの ともだちは
言っていることは 分かるけど
理想ばかりで マジ出来る？
いやがる人も いるだろう

家族が 近所が 動き出す
いろんな人の いるまちは
聞く耳もつこと 大切で
あの人 この人 さまざまな
考え まずは認め合う
熱い決意を 胸に秘め
長久手人（ながくてびと）は 起ち上がる

みんなが知り合い 混ざり合い
関わり合って 支えあう
やさしいことでは ないけれど
言ったコトバと 行動に
責任をもって 取り組もう

自分がまちに 出来ること
最初の一步を 踏み出そう
今ある暮らしを もっと良く
キラキラ光る 長久手を
今日の市民が つくるため
明日の市民に 渡すため・・・



詩に出てくる家族の構成

父親（47歳）、母親（44歳）、姉（19歳）、ボク（14歳）、じいちゃん（72歳）、ばあちゃん（69歳）の6人家族。長久手市在住。

市長あいさつを掲載

目 次

第1章 はじめに.....	1
1 策定の趣旨.....	1
2 ながくて未来図とは.....	2
(1) 計画の位置づけ.....	2
(2) 計画の構成.....	4
(3) 計画の期間.....	5
(4) これまでの長久手市における総合計画.....	6
第2章 長久手市の状況.....	7
1 長久手市をとりまく社会潮流.....	7
(1) 超高齢・人口減少社会の到来.....	7
(2) 地域共生社会の実現.....	7
(3) 人生100年時代の到来.....	7
(4) 安心・安全の確保.....	7
(5) 雇用・労働環境の確保.....	8
(6) 地球環境問題.....	8
(7) 観光交流の拡大.....	8
(8) 情報化・デジタル化の進展.....	8
(9) 地域における自立経営.....	8
2 長久手市の特性と課題.....	9
(1) 人口について.....	9
(2) 財政状況.....	16
(3) 市民の意向.....	18
(4) 特性と課題のまとめ.....	23
第3章 基本構想.....	24
1 将来像.....	24
2 基本目標	25
基本目標1 「やってみたい」でつながるまち.....	25
基本目標2 子どもが元気に育つまち.....	27
基本目標3 みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物.....	29
基本目標4 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち.....	31
基本目標5 いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪.....	33
基本目標6 あえて歩いてみたくなるまち.....	35
基本目標7 市民から信頼される市政の運営.....	37
3 人口フレーム.....	39
4 土地利用構想.....	40

第1章 はじめに

1 策定の趣旨

～2050 年に向け、市民主体のまちづくり文化を育む種を蒔こう！～

本市は、1974(昭和 49)年に第1次総合計画を策定してから第5次に至るまで、土地区画整理事業を始めとする都市基盤整備により住宅都市としての骨格を固め、2005(平成 17)年に開催された愛・地球博とリニモの開通を契機に、多様な交流を生み出す交流都市として発展してきました。その結果、1969(昭和 44)年当時に1万人程度だった人口も、現在は約6万人に達するほどになりました。

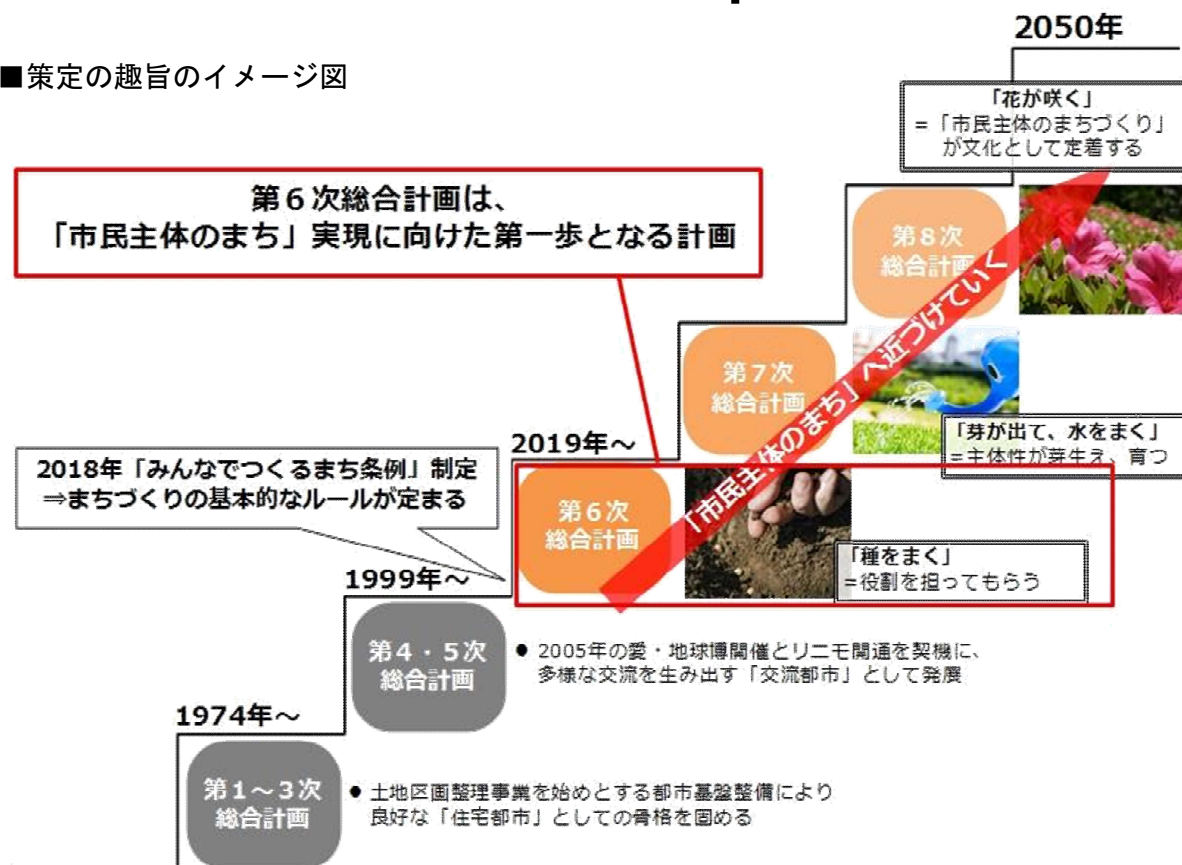
しかし、我が国全体で見ると、2008(平成 20)年が「人口減少元年」と言われ、すでに人口減少時代を迎えています。今は人口が増加している本市においても、いずれは人口減少が訪れ、高齢化は一層進み、厳しい財政運営を強いられることが予想されます。そのような時代に対応するには、今のうちから時間をかけ、行政主導のまちづくりから、市民主体のまちづくりへ転換する必要があります。

第6次総合計画(以下、「ながくて未来図」という。)は、2050 年には老若男女がまちづくりに関わるのが当たり前になり、市民主体のまちづくりが文化として定着するよう、多くの市民に役割を担ってもらう(＝種を蒔く)ことに主眼を置き策定しました。

■計画策定過程で目指した3つのこと

多くの市民が 策定に関わること 「まちづくり」を「我が事」と捉える市民を増やすこと 市民同士のつながりが生まれ、計画実行を担う市民を育てること

■策定の趣旨のイメージ図



2 ながくて未来図とは

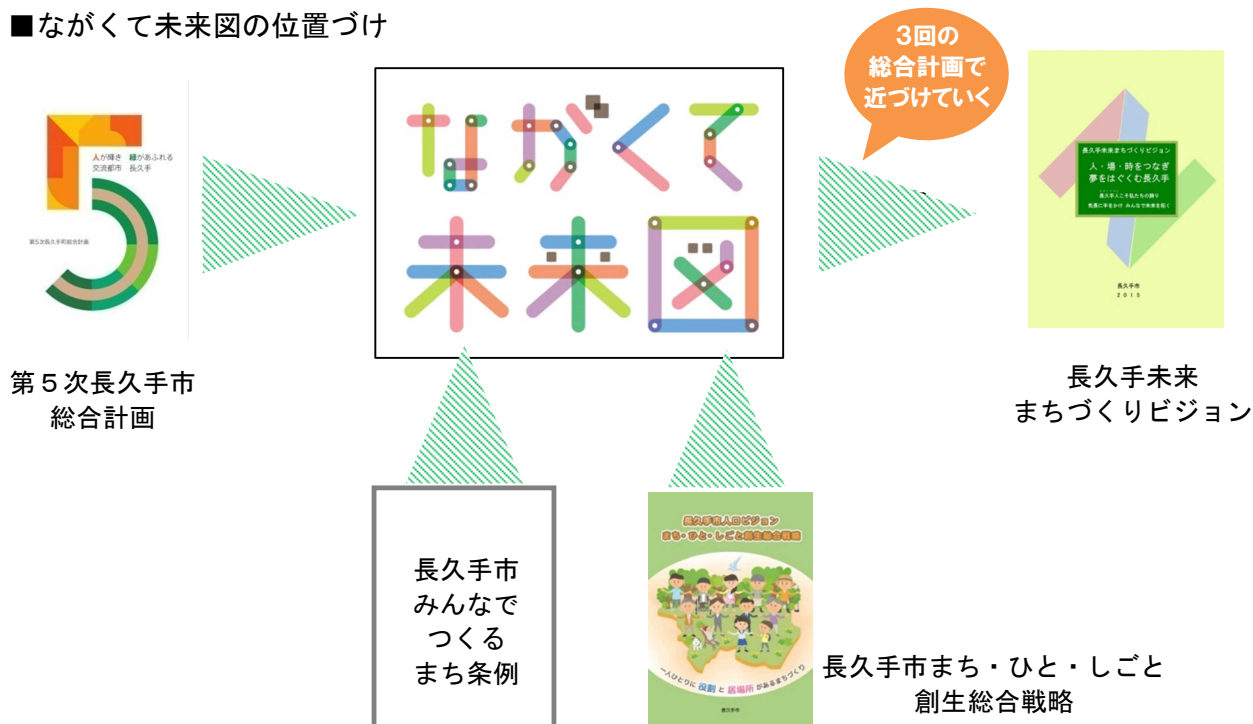
(1) 計画の位置づけ

ながくて未来図とは、長久手市が目指す10年後の姿やそれを実現するための施策を示した「まちづくりの指針」となる大切な計画です。計画の位置づけについては、「長久手市みんなで作るまち条例」に規定されており、計画の実行にあたっては、条例の趣旨に沿って行います。

また、本市では、2015（平成27）年度に、2050年を見据えた「長久手未来まちづくりビジョン」や人口減少対策に向けた「長久手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しており、ながくて未来図は、これらの計画と整合を図りながら、策定しました。

なお、ながくて未来図の実行にあたっては、各分野の方針や具体的な取組を示した個別計画と連動しながら、ながくて未来図で描く将来像の実現に結びつくよう取り組みます。

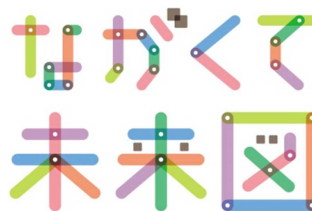
■ながくて未来図の位置づけ



■コラム① 第6次総合計画に愛称があるってホント?? ■

第6次総合計画を市民の皆さんと一緒に作り、多くの方に興味や親しみを持ってもらうため、動物園で新しく生まれる動物の赤ちゃんの愛称を募集するように、総合計画も愛称を決める「総合計画愛称総選挙」を開催しました。

多くの方から愛称の応募があり、投票の結果、総合計画の愛称が「ながくて未来図」に決定しました！



長久手市みんなで作るまち条例とは

市民主体のまちづくりの実現に向け、市民、議会及び市が、どのような役割を果たし、どのようにまちづくりを進めていくのか、まちづくりの基本的なことを定めた条例です。

※市民のみなさんが親しみやすいよう、条例案ができた段階で（仮称）長久手市自治基本条例から「長久手市みんなで作るまち条例」としました。

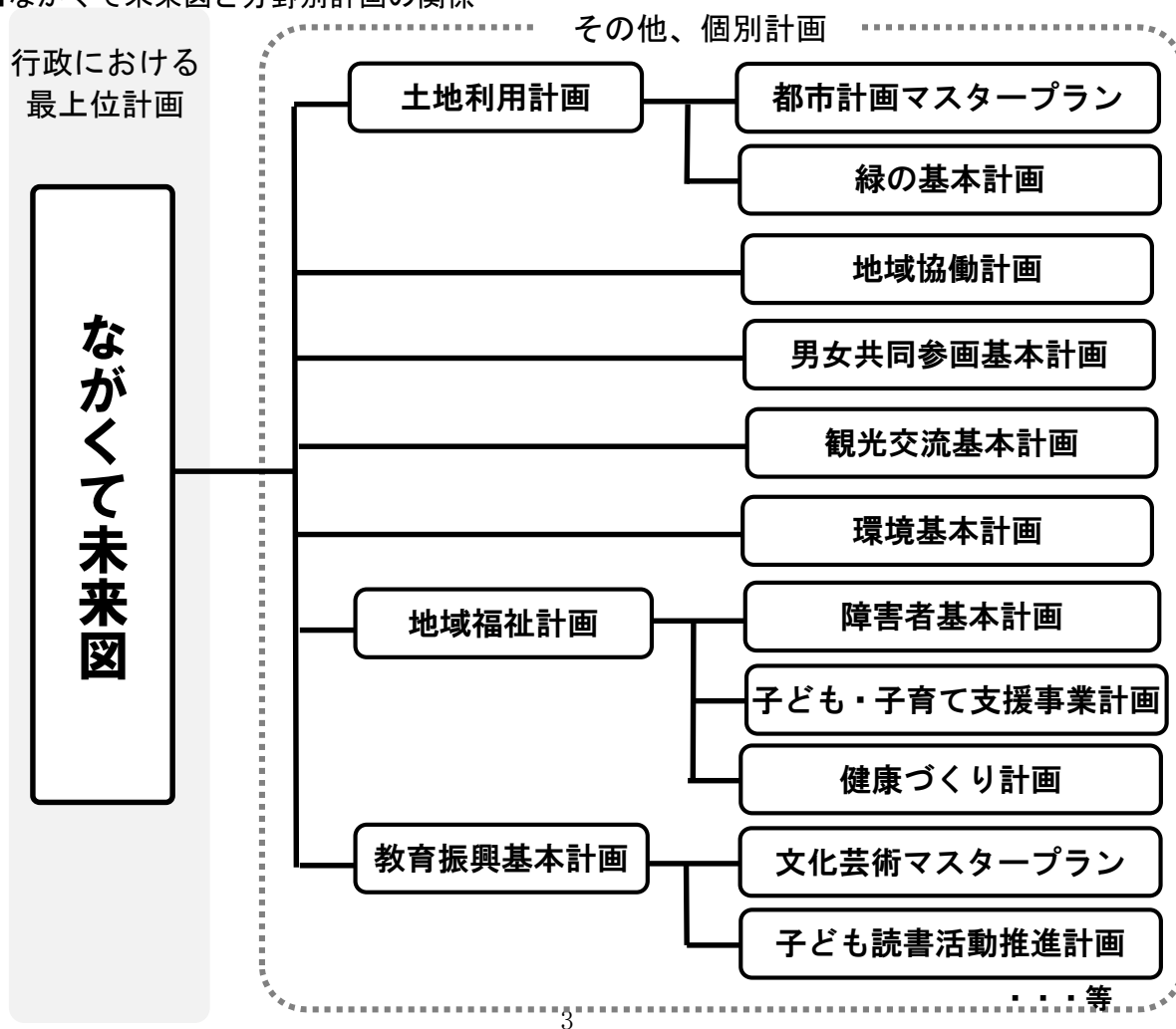
長久手未来まちづくりビジョンとは

本市においてもいずれ到来する超高齢・人口減少社会に、2050年という長期を見据え、今のうちから時間をかけて対応するために、「人・場・時をつなぎ 夢をはぐくむ長久手」を全体テーマにまちづくりの方向性をまとめたものです。

長久手市まち・ひと・しごと創生総合戦略とは

「まち・ひと・しごと創生法（2014（平成26）年法律136号）」に基づき、本市の特性に合った、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて、2015（平成27）年を初年度とする5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策を「一人ひとりに役割と居場所があるまちづくり」を戦略の根底に据えてまとめたものです。

■ながくて未来図と分野別計画の関係



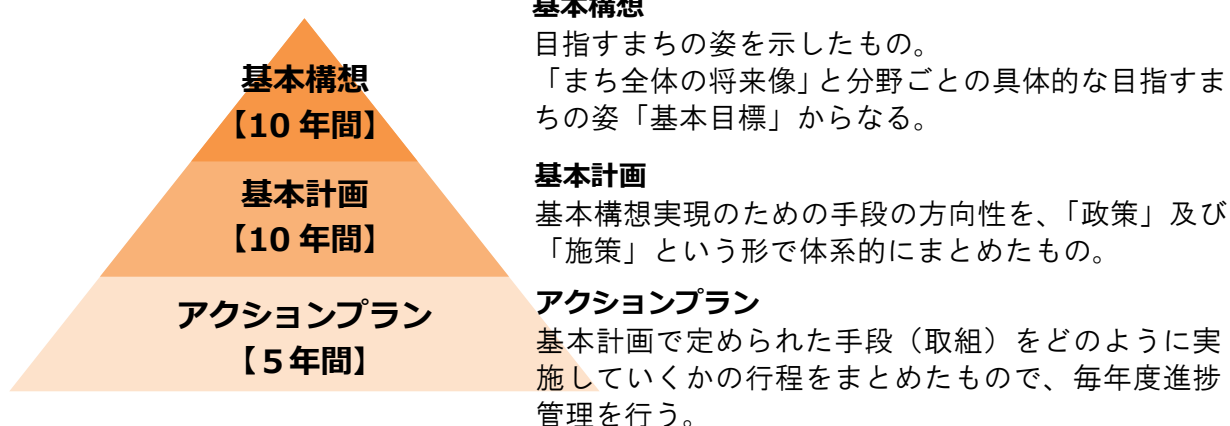
(2) 計画の構成

ながくて未来図は、「基本構想」「基本計画」「アクションプラン」の3つの階層で構成されます。また、市民主体のまちづくりを一層推進するために、市民が、基本構想を実現するために実行する取組をまとめた「市民まちづくりプラン」をつくりました。※アクションプラン、市民まちづくりプランは現在策定中です。

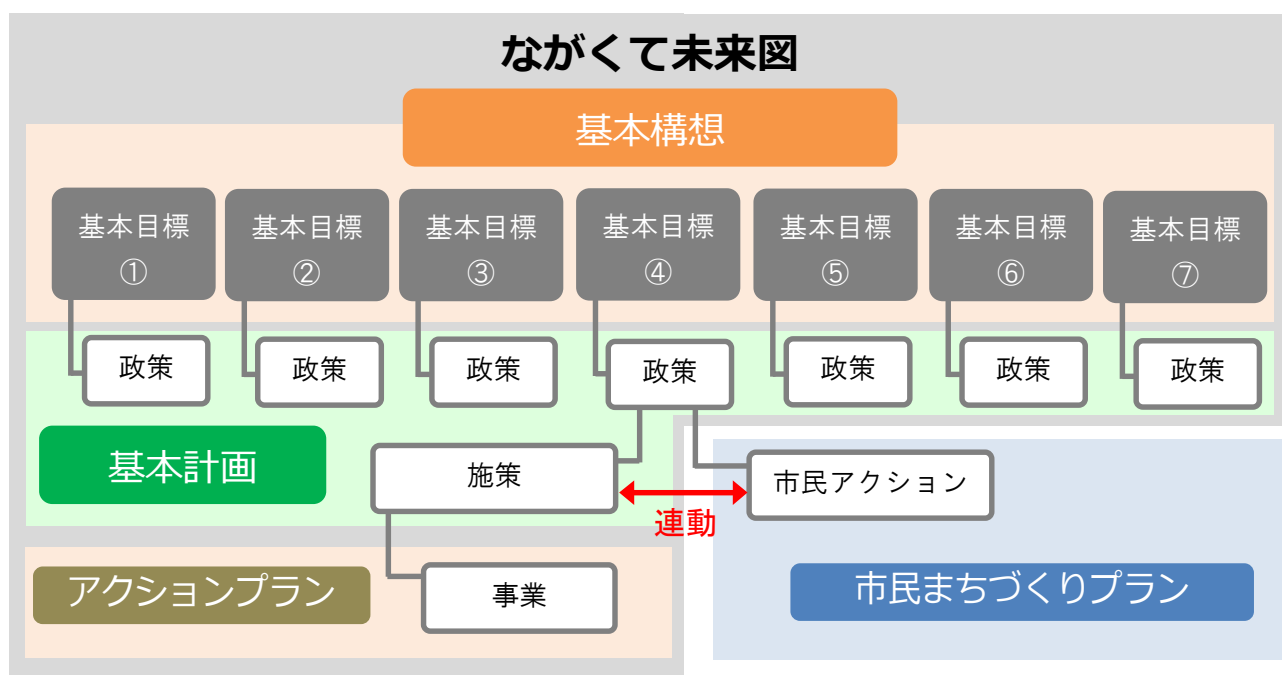
「基本計画」と「市民まちづくりプラン」は、基本構想を実現するための両輪として連動していきます。各基本目標及び政策に沿って、基本計画では施策・アクションプランを、市民まちづくりプランでは市民アクションを実行していくことにより、基本構想の実現を目指します。

また、ながくて未来図は、網羅的にあらゆる施策を位置付けた計画とするのではなく、未来に視点を置き、目指すまちの姿を実現するための重点的な施策を位置付けています。なお、掲載のない施策についても必要に応じて、適切かつ着実に実施していきます。

■ながくて未来図の構成



■ながくて未来図と市民まちづくりプランの関係



(3) 計画の期間

2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
基本構想									
基本計画									
アクションプラン (毎年度進捗管理)				中間見直し →		アクションプラン (毎年度進捗管理)			
市民まちづくりプラン									

（４）これまでの長久手市における総合計画

本市ではこれまで、その時々社会情勢や地域課題に対応するため、５回にわたり総合計画を策定し、目指すべき方向性を示しながら計画的な行政運営を行ってきました。

第１次総合計画（１９７４（昭和４９）年策定）

- 「みどりと太陽にめぐまれた文教の町」を将来像とし、名古屋市近郊の住宅地として、３つの土地区画整理事業を推進することで人口は２万人を超えました。
- 市街地整備にあたっては「自然との調和」を大切に、自然環境のある住宅地をつくりあげてきました。

第２次総合計画（１９８３（昭和５８）年策定）

- 第１次から将来像を引き継ぎ、都市基盤整備を行ってきました。北小学校、南小学校、南中学校等を相次いで開校し、１９８９（平成元）年には、人口が３万人を超えました。
- 都市基盤整備とともに、地域で支え合い、生活にゆとりとうるおいをもたらすまちづくりに努めました。

第３次総合計画（１９９０（平成２）年策定）

- 「住んでみたいまち 緑と文化 長久手の創造」を将来像とし、みどりの条例を制定し、景観に配慮した良好な都市環境の形成に努めました。また、新たな市街地整備を開始し、人口もほぼ４万人となりました。
- 住民生活の利便性向上や文化・芸術、国際交流に向けた取組を行いました。

第４次総合計画（１９９９（平成１１）年策定）

- 「～ひとに活力 まちに魅力～ふれあいひろがる創造のまち 長久手」を将来像とし、国際博覧会を支援するために４つの主要プロジェクトを新たに掲げ、特に農あるくらしの推進や福祉施策の充実による人にやさしいまちづくりを推進しました。
- 人口は増加を続け、約５万人となり、教育施設の充実や地域間交流等、良好な住宅都市から交流都市への転換期として、多様な交流に関する取組を推進しました。

第５次総合計画（２００９（平成２１）年策定）

- 「人が輝き 緑があふれる 交流都市 長久手」を将来像とし、リニモを活用したまちづくりを進め、交流都市としてさらなる発展に努めました。
- ２０１２（平成２４）年１月４日の市政施行以降、地域の絆づくりをはじめとした市民が幸せを感じられるまちづくりを展開し、まちづくり協議会の設立や地域共生ステーションの整備を進めました。

第2章 長久手市の状況

1 長久手市をとりまく社会潮流

（１）超高齢・人口減少社会の到来

我が国は、今後人口減少と高齢化、少子化が進むことにより、社会保障費の増加や医療・介護サービス等の需要の急激な増大が懸念されています。

また、現在の人口増加を前提とした社会システムの見直しが必要となっており、公共施設を始めとする施設は、機能の集約や統廃合によるスリム化を図ることが課題となっています。

（２）地域共生社会の実現

2016（平成28）年7月に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部が、内閣府に設置されました。制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく地域共生社会の実現が目指されています。

（３）人生100年時代の到来

今後、我が国では高齢化がさらに進み、「人生100年時代」を迎えることが予測されており、そのような長寿社会において、いつでも学び直し・働き直しができる社会が目指されています。

また、個人の価値観やライフスタイルが多様化する中で、人々は心の豊かさや生活の質の向上を求める傾向が強まっています。生涯にわたって、一人ひとりが価値観やライフスタイルに応じた働き方や暮らし方を選択することができ、個性と能力を十分に発揮できる環境が必要になってきています。

（４）安心・安全の確保

今後、南海トラフ巨大地震が高い確率で発生することが予測される中で、自然災害に対する住民の不安が大きくなっています。

2011（平成23）年の東日本大震災、2016（平成28）年の熊本地震、また、近年の大規模な風水害等では、行政機能が維持できず、地域コミュニティによる助け合いや正確な情報周知が重要になりました。地域の見守りや支え合いの輪によって、防災や防犯等に対応する必要性が、再認識されるようになってきています。

（５）雇用・労働環境の確保

高齢化の進行や団塊の世代の大量退職、生産年齢人口（15～64 歳）の減少により労働力人口が減少しつつある中、年齢や性別に関わらず、誰もが安心して働ける雇用・労働環境の確保が求められるようになっていきます。

また、女性の活躍推進やワークライフバランスの推進、働き方改革等、労働環境の整備に向けた法整備や取組等が徐々に進んでいます。

（６）地球環境問題

化石燃料の大量消費や世界的な人口増加等により、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量が増加しています。地球温暖化問題は、生態系や食料、健康等、世界中のあらゆる場所に影響を及ぼす問題であり、我が国においても、気候変動や季節感の喪失等が年々起こりつつあります。

また、地球規模での生物多様性の危機が懸念されており、生物多様性保全の場として、里地里山の保全活用等が求められています。

（７）観光交流の拡大

東京オリンピック（2020 年）の開催、リニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業（2027 年予定）等、観光交流に対する期待が高まっています。国や都道府県では、インバウンドの増加に注力しており、国際的な観光の受け入れ拡充は、産業や商業等の面における大きな政策課題となっています。

また、愛知県においては、愛知万博の理念を次世代へ継承し、未来に繋げていくため、愛・地球博記念公園に、ジブリの作品群を保存し、多くの方々が見て、楽しめる「ジブリパーク」の開業（2020 年）を目指しています。

（８）情報化・デジタル化の進展

ICT（情報通信技術）の飛躍的な発達と情報通信機器の普及・多様化が進む中、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用拡大、AI（人工知能）やビッグデータ等の活用により、人々の日常生活や企業活動、行政サービス、社会経済システム等が大きく変化しています。

我が国においても、ICT を活用した電子行政サービスの提供や業務の効率化・省力化が進められており、住民の利便性向上や行政事務の効率化が進められつつあります。

（９）地域における自立経営

2000（平成 12）年の地方分権一括法の施行以降、地域での自立的な取組が進められており、ふるさと納税やクラウドファンディング等、資金調達の仕組みが各地で多様化しています。

人口減少、高齢化、安心・安全への対応、子育て支援、コミュニティ強化等、地域を取り巻く課題は多様であり、それらの地域の課題解決に向けて、地域、市民、大学、NPO 法人、企業等様々な主体が、地域への関わりを強めています。

2 長久手市の特性と課題

(1) 人口について

ア 人口の推移・推計

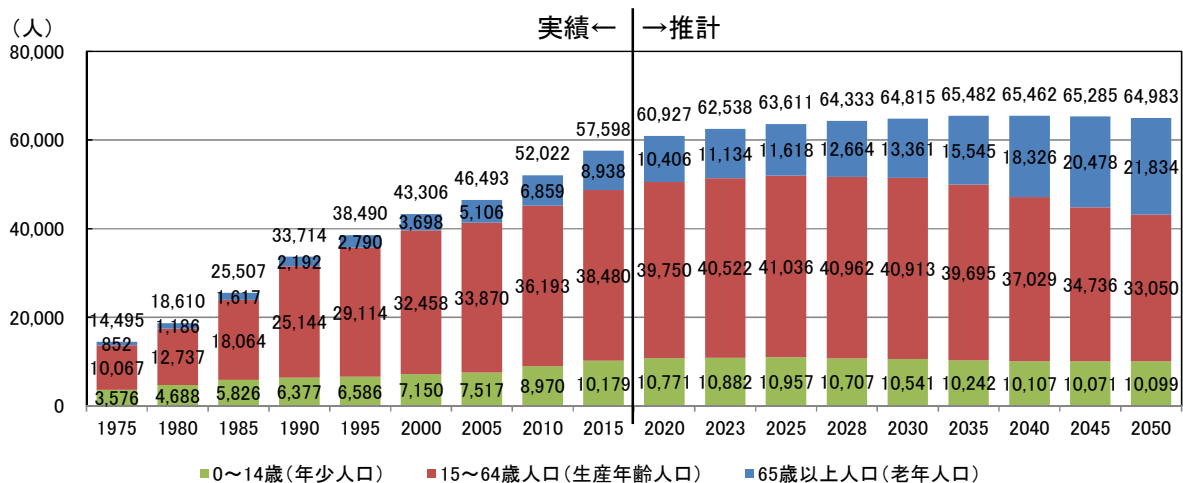
○総人口は 2035 年まで増加し、その後は減少に転じると予測されます。(図 1)

○年少人口は、2025 年の 10,957 人をピークに、年々減少すると予測されます。(図 1)

○生産年齢人口は、2025 年の 41,036 人をピークに年々減少し続け、2040 年には、全体に占める割合が 60%を下回ると予測されます。(図 1)

○2035 年頃には、本市でも超高齢社会となり、団塊ジュニア(40 歳代)の世代が高齢者になり始める 2040 年頃から高齢化が一層進みます。(図 1・2)

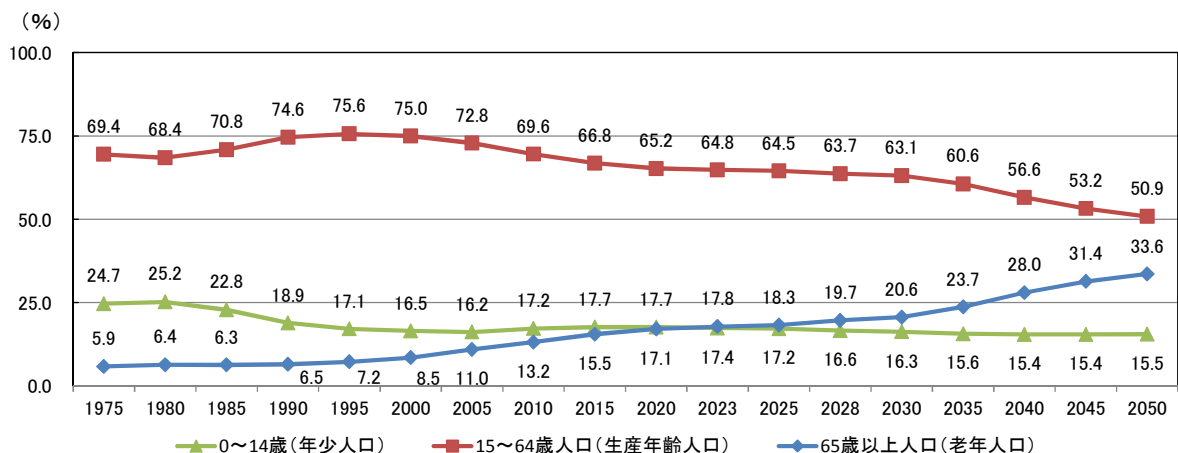
○老年人口は、年々増加し続け、2040 年には 18,326 人と、2015 (平成 27) 年から 2 倍以上の増加が予測されます。(図 1)



資料：国勢調査及び長久手市将来人口推計報告書

※年齢不詳分を各年齢層に按分。なお、各年齢階級別の値を小数点以下で四捨五入しているため、合計値と必ずしも一致しない。

【図 1 3区分別人口】

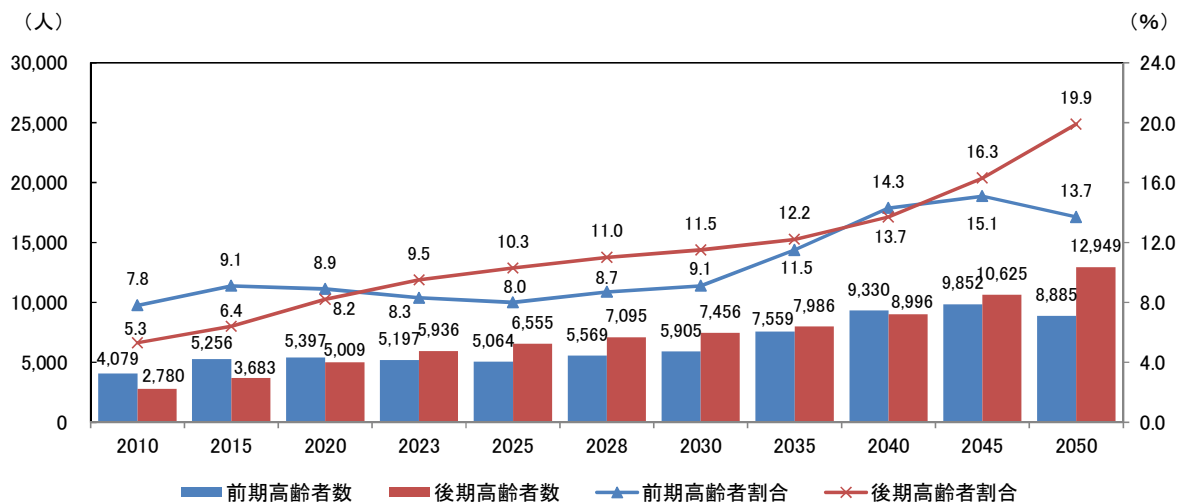


資料：国勢調査及び長久手市将来人口推計報告書

【図 2 3区分別人口割合】

イ 高齢者数及び割合の推移・推計

○2023 年頃には、前期高齢者と後期高齢者の割合が逆転し始め、2050 年には、後期高齢者の割合が総人口の約 2 割となります。(図 3)



資料：国勢調査及び長久手市将来人口推計報告書

【図 3 高齢者数・割合】

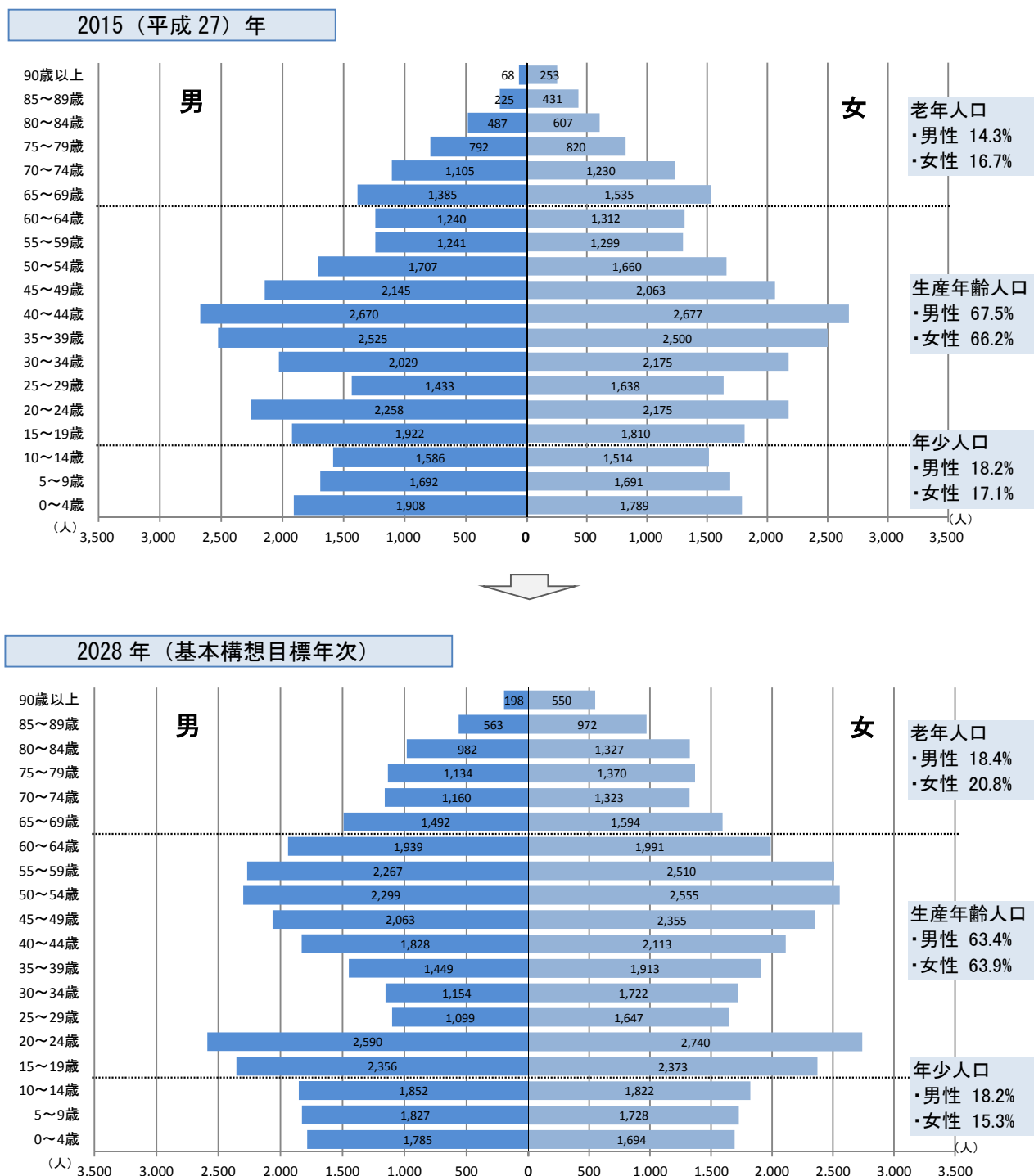
※前期高齢者は 65 歳以上から 74 歳までの方、後期高齢者は 75 歳以上の方をいう。

ウ 人口ピラミッドの推計

○2015（平成 27）年には、15～24 歳と 30～49 歳の世代が多くなっています。

（図 4）

○2028 年には、男女ともに老年人口の割合が増加する一方、男性の生産年齢人口、特に 25 歳～34 歳の人口が減少すると予測されます。（図 4）

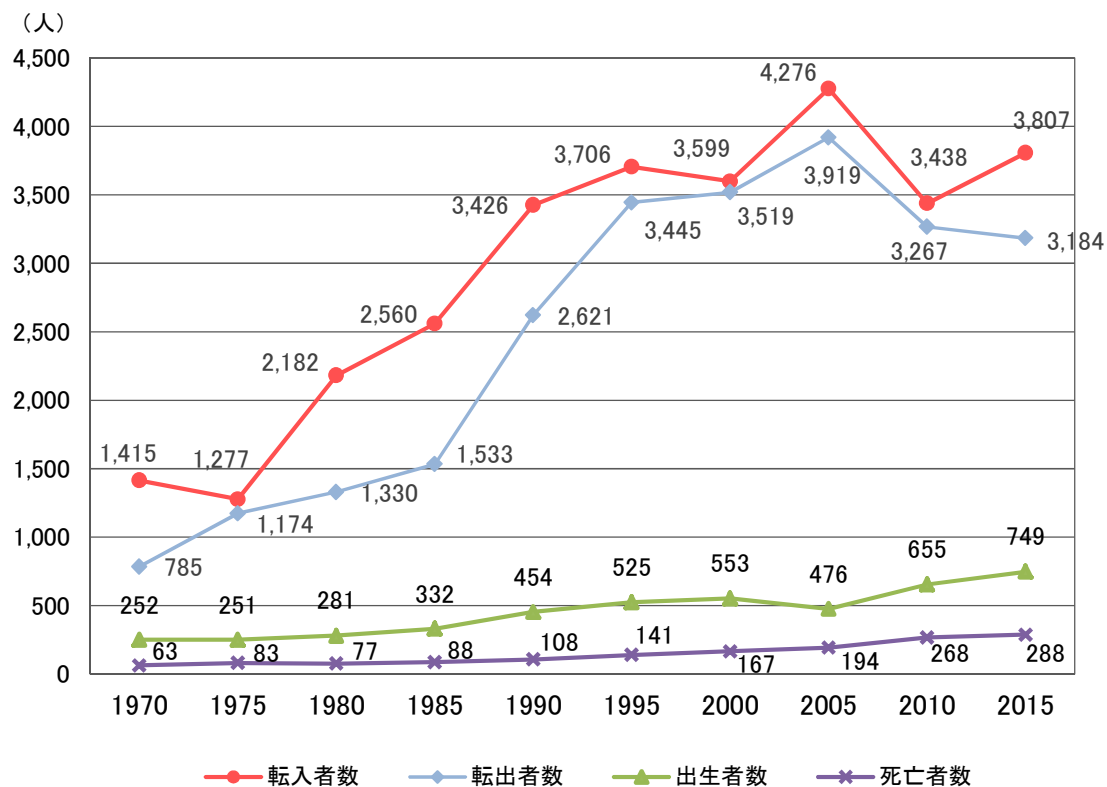


【図 4 人口ピラミッド】

資料：国勢調査及び長久手市将来人口推計報告書

エ 人口動態の推移

○自然増（出生者数＞死亡者数）と社会増（転入者数＞転出者数）の傾向が続いています。（図５）



資料：住民基本台帳

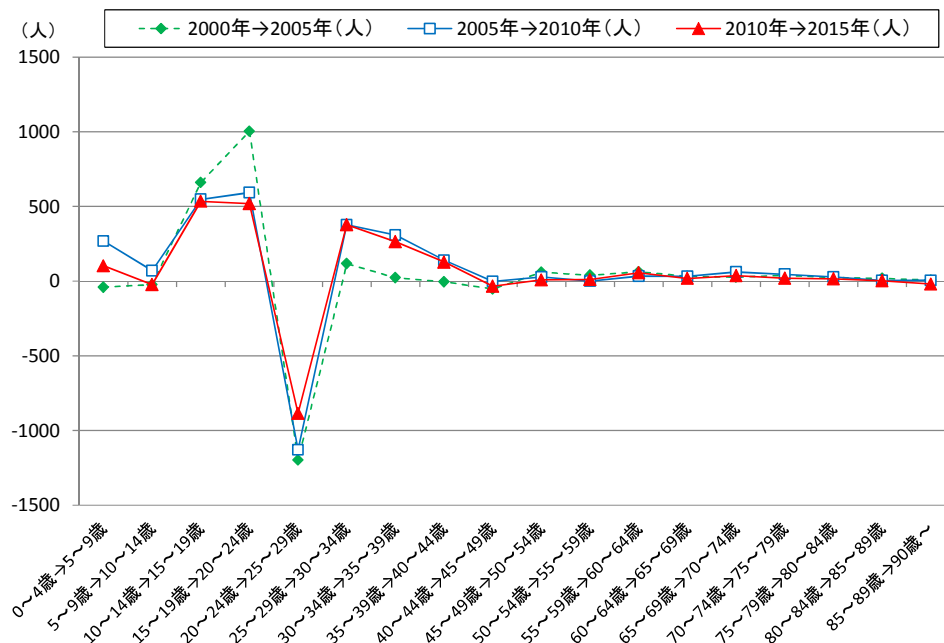
【図５ 人口動態】

オ 性別・年齢別の純移動数の時系列変化

○男女ともに 20 歳前後の転入と 25 歳前後の転出が多くなっています。(図 6,7)

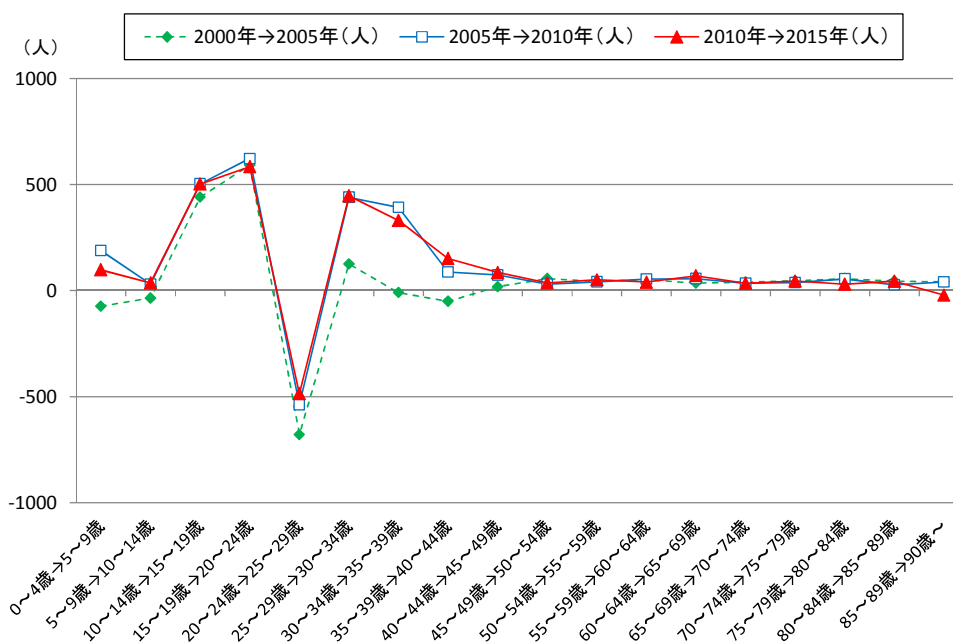
○近年では、特に男性については、市内及び周辺大学の学生の卒業に伴う転出や仕事の都合等の理由から、25 歳前後の転出が 20 歳前後の転入を大きく上回っています。(図 6)

○土地区画整理事業や民間開発事業による宅地供給の影響等から、男女ともに、30～40 歳代では転入超過となっています。(図 6,7)



資料：国勢調査

【図 6 年齢 5 階級別の純移動数（男性）】



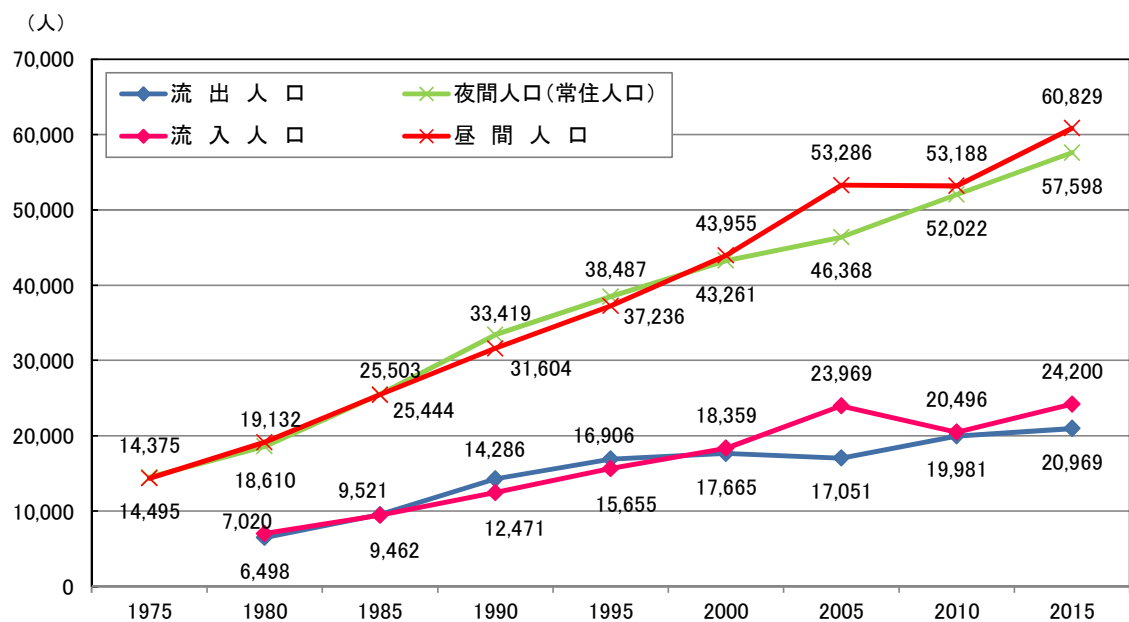
資料：国勢調査

【図 7 年齢 5 階級別の純移動数（女性）】

カ 流出入人口と昼夜間人口の推移

○流出・流入人口の推移については、流入人口が上回っています。（図 8）

○昼夜間人口については、2005（平成 17）年の愛・地球博の開催時に昼間人口が夜間人口を大きく上回りました。その後も昼間人口が夜間人口を上回り、その差は徐々に大きくなっています。（図 8）



資料：国勢調査

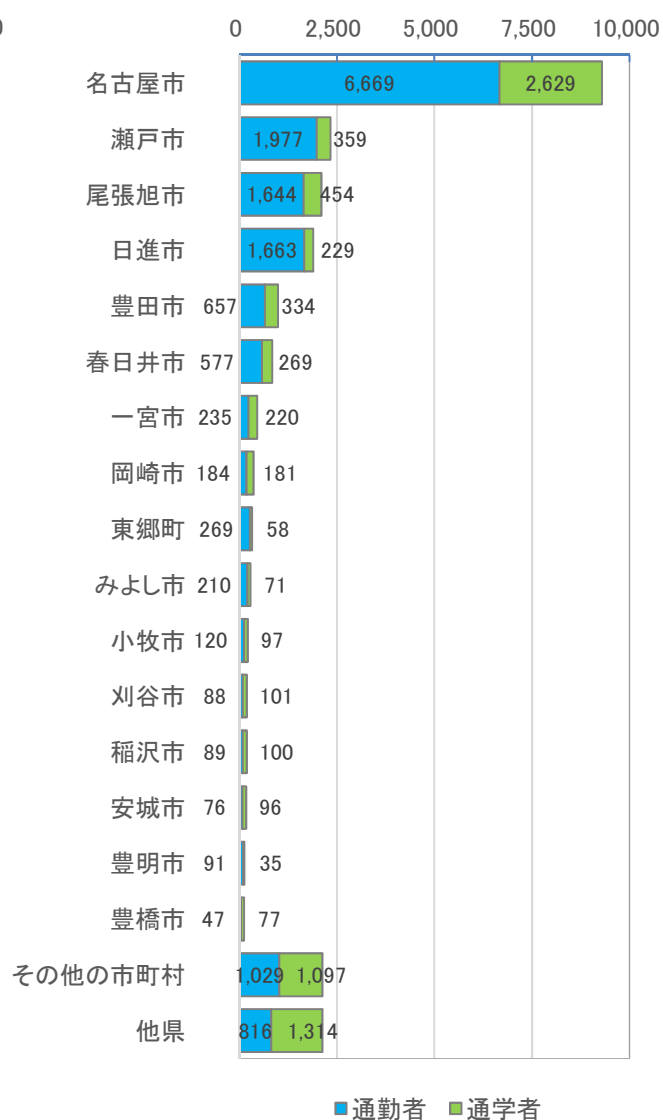
【図 8 流出入人口と昼夜間人口】

キ 通勤・通学による人口の流出入の状況

○通勤による流出では名古屋市、豊田市が多くなっており、流入では名古屋市、瀬戸市が多くなっています。(図9,10)

○通学による流出では名古屋市、日進市が多くなっており、流入では名古屋市、尾張旭市、瀬戸市が多くなっています。(図9,10)

○通学者による流入人口については、その他の市町村や県外から多くの流入があることも特徴です。(図10)



資料：国勢調査（H27）

【図9 市町別の通勤者及び
15歳以上の通学者による流出人口】

【図10 市町別の通勤者及び
15歳以上の通学者による流入人口】

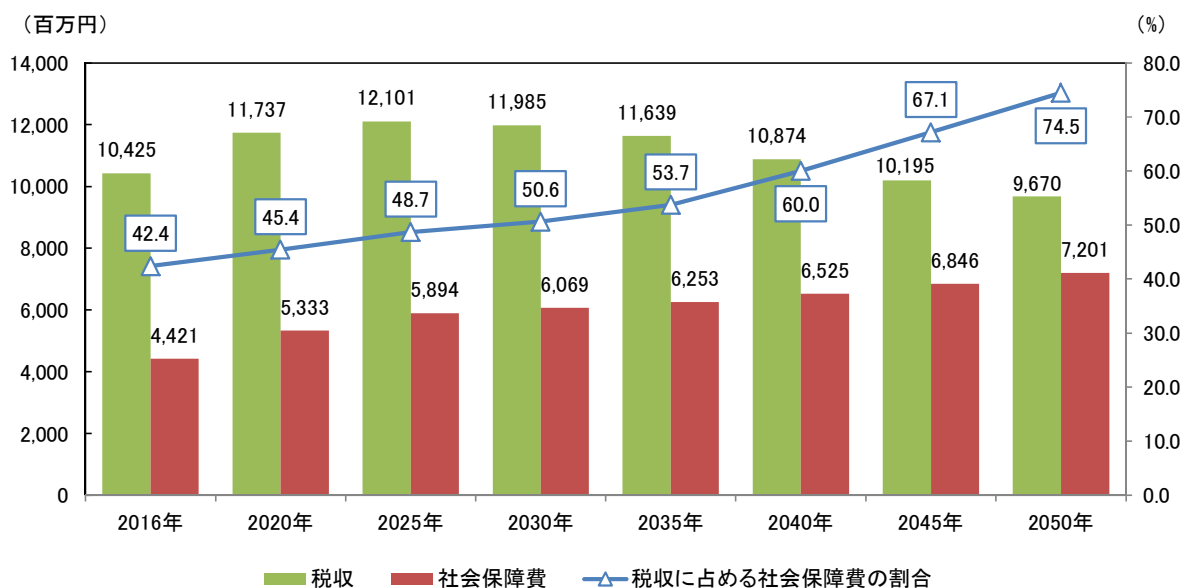
(2) 財政状況

ア 税収額及び社会保障費の推計

○市の税収額は2025年にピークを迎え、その後減少し、2045年には2016（平成28）年の水準を下回り、2050年には100億円を下回ると予測されます。（図11）

○社会保障費は、年々増加し続けると予測され、2050年には2016（平成28）年の約1.6倍になると予測されます。（図11）

○税収に占める社会保障費の割合は、2030年に50%を超え、2050年には、約75%に達し、社会保障費以外に使える予算が年々減少していくことが予測されます。（図11）



資料：2016（平成28）年・2020年は中期財政計画、2025年以降は中期財政計画を基に推計

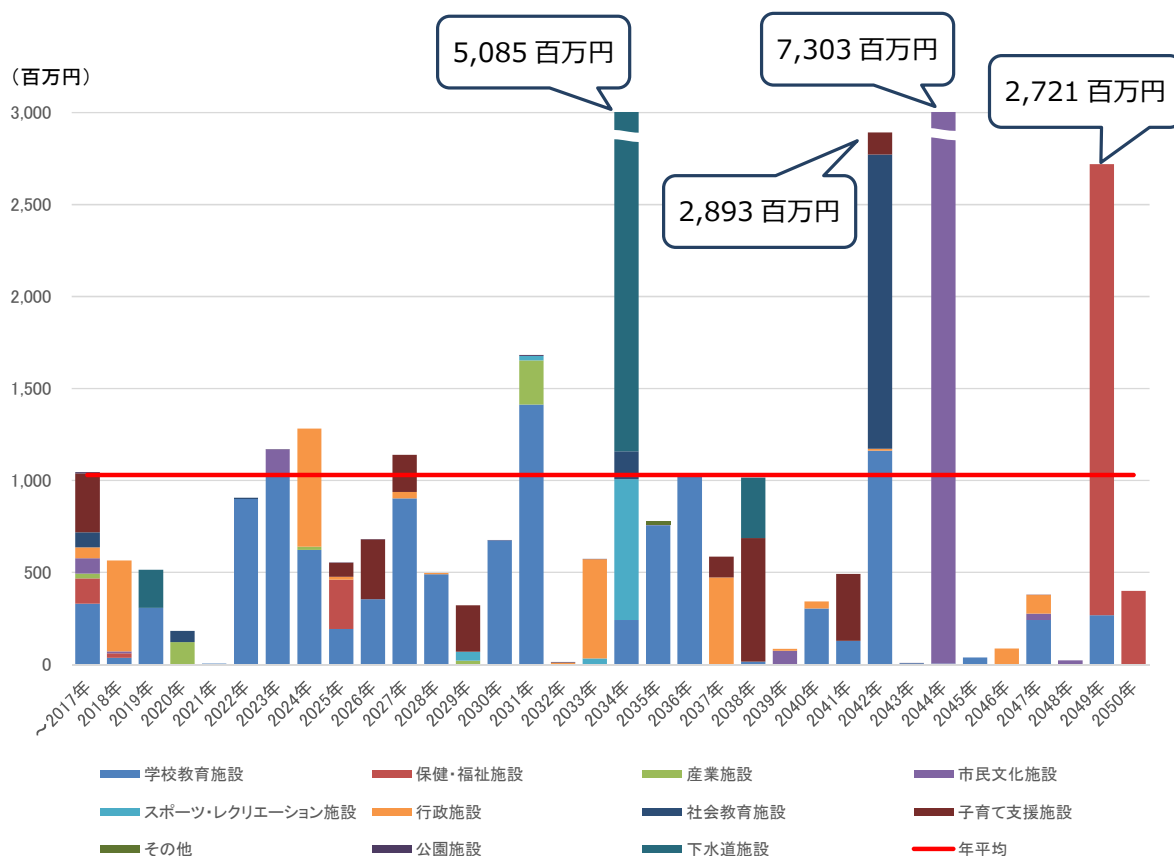
※社会保障費は、児童手当・医療費等の扶助費、国民健康保険繰出金、介護保険繰出金、後期高齢者医療繰出金を表す。

【図11 税収及び社会保障費の推計】

イ 公共建物の将来更新必要額の推計

○2022 年から約 10 年間は、学校教育施設の更新が集中するとともに、1970 年代後半から 1980 年代前半に設置された子育て支援施設の更新が訪れ、それ以降は、長久手浄化センター、中央図書館、文化の家や福祉の家等の大規模な施設の更新が訪れるたびにピークを迎えます。(図 12)

○2050 年までの更新必要総額は約 350.3 億円となり、年平均では約 10.3 億円の更新費用がかかるものと予測されます。



資料：長久手市公共施設等総合管理計画（2017（平成 29）年策定、2018（平成 30 年）年改訂）

※将来の建物資産更新必要額は、法定耐用年数が経過した建物を、取得時と同額（※中古資産は再調達価額）で建て替えた場合として推計しています。

※複合施設は、施設の主たる用途の分類で一括計上。

※複数回の建て替えは考慮していない。

【図 12 公共建物の将来更新必要額】

(3) 市民の意向

ア 長久手市市民意識調査

これまでの市政全般の成果を検証するとともに、市民のこれからのまちづくりに対する意向を把握し、今後の市政運営等に反映させるため、2016（平成28）年10月から11月にかけて、住民基本台帳から無作為抽出された市内在住の満18歳以上の方5,000人を対象に、アンケート調査を実施しました。

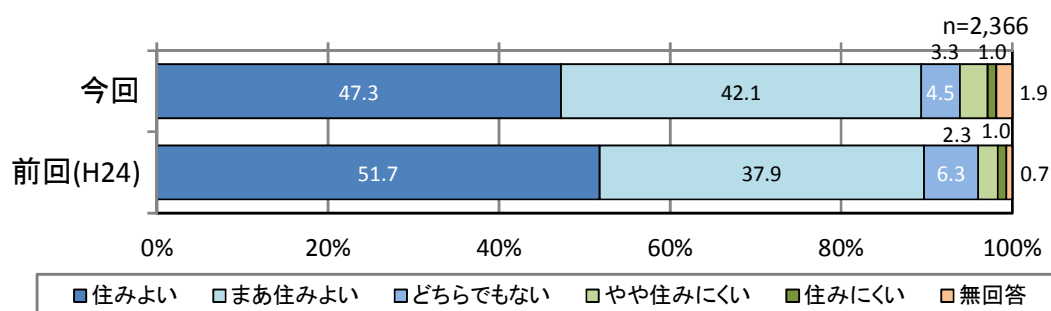
■調査の概要

配布数	回収数	回収率
5,000 人	2,366 人	47.3%

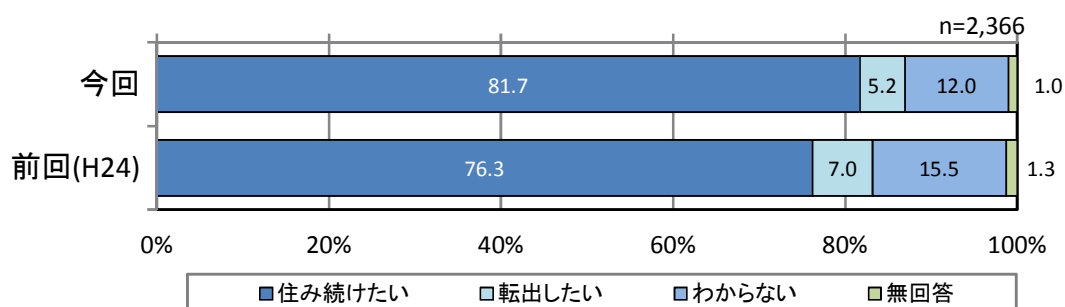
(ア) 本市での暮らしについて

○本市の住み心地をみると、「住みよい」と「まあ住みよい」を合わせると約9割となっており、前回調査とほぼ同様の結果となっています。（図13）

○本市への今後の定住意向をみると、「住み続けたい」と思う人は約8割で、前回調査より増加しています。（図14）



【図13 長久手市の住み心地】



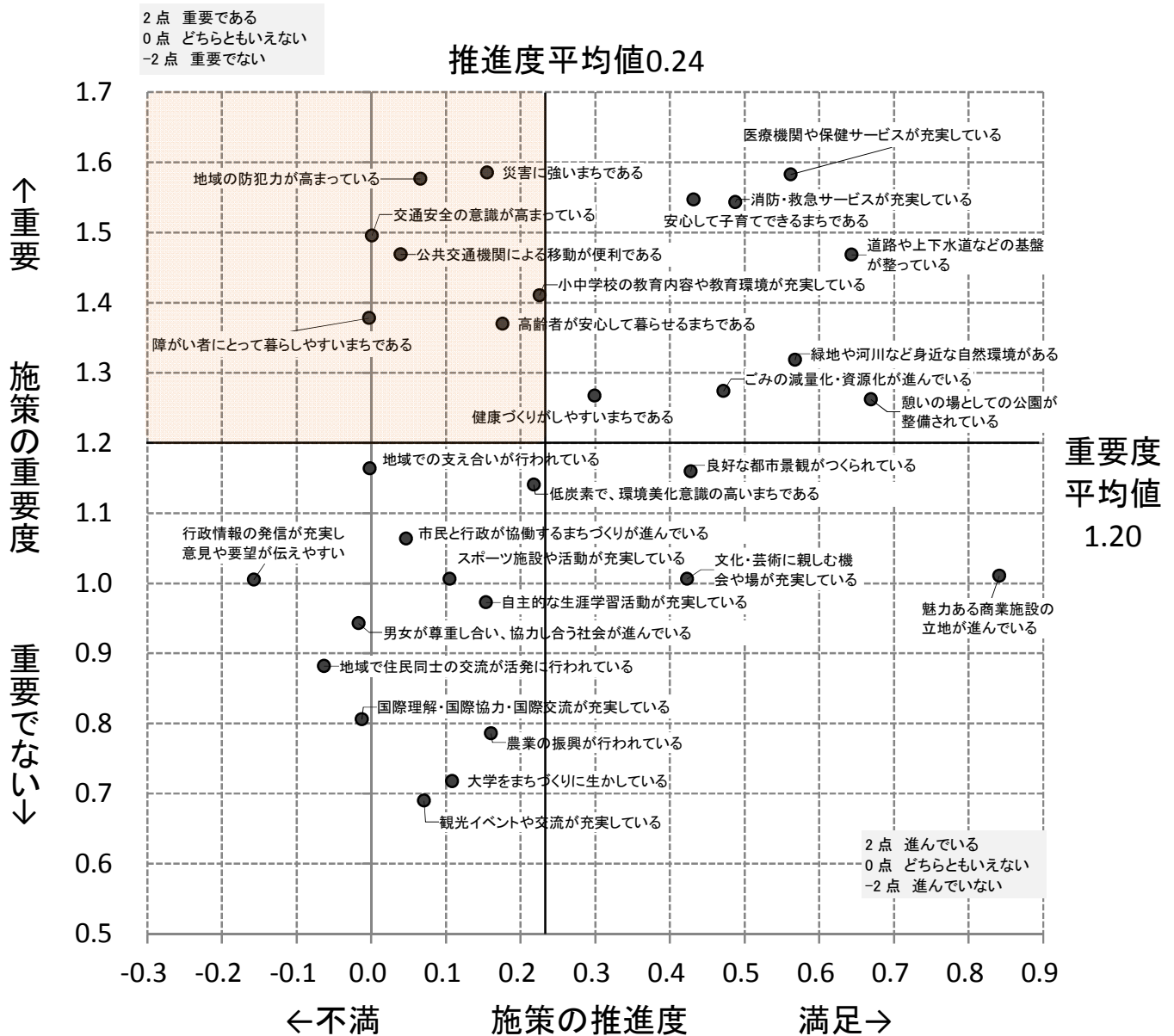
【図14 長久手市の定住意向】

(イ) 基本施策ごとの重要度・満足度

○本市の施策の推進度をみると、ほぼ9割の施策が0点以上でプラス評価されています。(図16)

○施策の重要度が高いが、推進度が低い項目は、“地域の防犯力が高まっている”、“災害に強いまちである”、“交通安全の意識が高まっている”、“公共交通機関による移動が便利である”、“障がい者にとって暮らしやすいまちである”、“小中学校の教育内容や教育環境が充実している”、“高齢者が安心して暮らせるまちである”の7項目です。(図15)

○市民主体のまちづくりを進めるにあたっては、“地域での支え合いが行われている”、“市民と行政が協働するまちづくりが進んでいる”、“地域で住民同士の交流が活発に行われている”といった項目が重要になりますが、いずれも施策の重要度も推進度も平均値よりも低くなっています。(図15)



【図15 基本施策の重要度・推進度】

イ ワークショップや団体ヒアリング等の結果

延べ 3,474 人の方から、ワークショップや団体ヒアリング等の様々な機会を通じて、アンケート調査等では拾いきれない声をうかがいました。

(ア) 市民ワークショップ

本市の現状の特性（魅力）と課題について意見を聞くため、ワークショップを開催し、グループで話し合いました。

■主な意見

特性	課題
・まちづくりに熱心な人が多い。 ・素敵なボランティア活動が多い。 ・市民活動がしやすい環境が整っている。 ・子どもが多く、公園等の遊び場に活気がある。 ・新しい保育園ができています。 ・児童の通学を見守る人が多い。 ・自然と共存し、大切にしている人が多い。 ・田んぼがあることで、季節を感じることができる。 ・香流川があり、春は桜がきれいである。 ・まちなみがきれいである。 ・コミュニティ・ソーシャル・ワーカーがいる。 ・まちの防犯パトロールをしている人がいる。 ・病院や医者が多い。 ・イベントや文化活動が盛んである。 ・福祉の家や温浴施設等の資源がある。 ・小牧・長久手の戦いの史跡等、歴史を感じられ、昔ながらのお祭りも残っている。 ・いまだに新築住宅が増えており、大型マンションも多い。 ・閑静な住宅地である。 ・街並みがきれいである。	・転出入が多く、誰が引っ越してきたかわからない。 ・地域に興味がなく、煩わしく感じる人が多い。 ・自治会やPTA、子ども会等で、地域活動の担い手不足がみられる。 ・長久手市で学ぶ高校生や大学生を地域コミュニティに巻き込めていない。 ・学校の時間外の子どもの遊び場や居場所が少ない。 ・不登校の子ども等様々な事情を抱えた子どもの居場所が少ない。 ・子育てで悩みを抱えた夫婦の居場所や気軽に相談できる場が少ない。 ・子どもに関わる活動に参加できない保護者は、地域とのつながりをつくることができない。 ・農業の後継者が不足している。 ・田んぼ・林等の自然が減少してきている。 ・長久手市の貴重な自然を子どもたちが体験できる場が少なくなっている。 ・独居高齢者や後期高齢者が増加し、暮らしをどう守るのか不安である。 ・運動する機会が少なく、健康寿命を延伸するためにどうすればいいかわからない。 ・空き巣等の犯罪が多い。 ・災害時の対応を不安に思う。 ・若者に歴史や伝統が受け継がれていない。 ・室内で遊べる施設が少ない。 ・車がないと生活が不便である。 ・リニモやN-バスがあまり使われていない。 ・地区によっては、交通が不便であったり、まちなかの道路がせまかったりする。

(イ) 団体ヒアリング

市内で活動している市民団体にヒアリングを行い、活動を通じて感じる長久手の現状（特性（魅力）・課題）について、意見をもらいました。

■主な意見

特性	課題
・あいさつ運動はとても大切である。 ・地域スマイルポイントが活動のきっかけになっている。 ・子どもをきっかけに若い世代が地域に参加している。 ・閑静なまちで、子どもの教育に適している。 ・名古屋市に隣接しているのに自然が豊かである。 ・里山が残っている。 ・湿地があり、市の財産となっている。 ・福祉団体の活動に対して、市民の理解が一定程度みられる。 ・介助犬の認知度が高くなっている。 ・文化の家を中心に催しが充実している。 ・ヒト・モノの資源が豊富である。	・転入者が多いため、郷土愛が十分に形成されていない。 ・地域活動をしている人と、していない人の差が大きい。 ・どの行事にも同じ人が参加している。 ・子育て世帯は忙しく、地域への参加が難しいといった人がみられる。 ・定年退職者で関わりがなく、引きこもっている人が多い。 ・人口増加に子育て支援が追い付いていない。 ・子どもが大きくなると、市外に出てしまう。 ・市内に自然があることが当たり前になっており価値が感じられにくくなっている。 ・湿地・里山の保全や里山文化の担い手が不足している。 ・一定の遊休農地が存在する。 ・介護者の高齢化等、高齢化が進む中で暮らしをどう守るのか不安である。 ・地域の中で顔見知りとなって助け合う関係がまだ出来ていない。 ・必要な人に必要な情報が届いていない。 ・市の情報発信力が弱い。 ・市内が経済的に活性化する仕組みが不十分である。 ・市内の交通量が増加している。 ・これ以上の開発は望まない。

市民ワークショップや団体ヒアリング等でうかがった意見のほか、本市を取り巻く社会潮流、人口推計等の各種データ、市民意識調査の結果等も踏まえ、いくつかのキーワードを抽出しました。

抽出したキーワードをさらに6分野に整理し、6つの分野の根底となる「市政運営」の分野を加え、7つの分野にまとめました。



（４）特性と課題のまとめ

前ページの7つの分野ごとに、長久手市の特性（魅力）・課題をまとめました。

1 「人づくり」

特性

- まちづくりに熱心な市民が、徐々に増えている。
- 市内に4つの大学、周辺を含めると10の大学があり、学生が多く住んでいる。

課題

- 自治会や子ども会等の地域活動の担い手が不足している。
- 自治会加入率が低く、地域での市民同士のつながりの重要性があまり認識されていない。
- 転入者が多く、地域の中で顔見知りになるまで時間がかかる。
- 今後高齢化が一層進むため、高齢者が健康であり続けるための活躍できる場づくりが課題である。
- 高校生や大学生等の若者をまちづくりに巻き込めていない。
- 20歳前後の転入が多いものの、25歳前後の若者が、仕事の都合等により、転入以上に転出している。
- 市民アンケートでは、男女共同参画に関する施策が進捗していないとの結果であった。

2 「子ども」

特性

- 子育て世代を中心に当面の間は、人口増加することが予測されている。
- 出生者数が増加傾向にあり、人口の自然増が続いている。

課題

- 不登校の子ども等、様々な事情を抱える子どもの居場所を拡充する必要がある。
- 就労形態や生活スタイルの多様化の中で、安心して出産・子育てできる環境整備が課題となっている。
- 市民アンケートでは、小中学校の教育内容や教育環境に関する施策が、あまり進捗していないとの結果であった。
- 子育ての悩みを気軽に相談できる場が少ない。
- 保育園(0～2歳児)や放課後児童クラブの待機児童が発生している。

3 「自然環境」

特性

- 都市基盤施設が整備された西部の市街地と、東部の豊かな自然が共存している。
- 市東部を中心に農地や里山が残っている。
- 市の東西を流れる香流川は、貴重な水辺空間として、市民に親しまれている。

課題

- 東部の丘陵地において、土砂採取が行われている箇所が散見され、緑の保全が課題となっている。
- 西部の市街地において、潤いと安らぎを与えるため、緑を創出する必要がある。
- 農地や里山などの自然が年々減少している。
- 農業後継者が不足しており、一定の遊休農地が存在する。
- イノシシやハクビシン等によって、農作物が荒らされる獣害が増加している。
- 人口増加に伴い、市内の二酸化炭素排出量が増加傾向にある。

4 「生活」

特性

- 地域共生社会の実現に向けた取組が進められている。
- 全国初の介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」がある。
- 健康づくりに関わる施設が備わった愛知医科大学医療センターがある。

課題

- 地域での支え合いの重要性が認識されていない。
- 市民アンケートでは、防災、防犯、交通安全、障がいのある人や高齢者の暮らしに関する施策が、あまり進捗していないとの結果であった。
- いずれ発生すると予測されている大規模災害に備える必要がある。
- 高齢化による社会保障費の増大を抑制するために、健康寿命の延伸が課題となっている。

5 「交流」

特性

- 古戦場公園や色金山歴史公園などの多くの史跡が現在も残されている。
- 文化の家があり、文化交流活動が盛んである。
- 2020年にジブリパークの開業が予定されている。
- あぐりん村やござらっせ、モリコロパーク、トヨタ博物館等の多くの観光客が訪れる施設がある。

課題

- 若者に、市の歴史や伝統が受け継がれていない。
- 市内にある集客力のある観光施設等を活用し、市内外の交流を促進し、賑わいを創出する必要がある。
- 市の魅力を上手く情報発信できていない。

6 「都市経営」

特性

- 市の東西の中心部をリニモが走っている。
- 土地区画整理事業により、低層住宅を主体とする良好な住宅地が形成されている。
- 民間開発等により、住宅地供給が続いている。

課題

- 市民アンケートでは、公共交通の利便性に関する施策が、あまり進捗していないとの結果であった。
- 市内の交通量の増加が課題となっている。
- 旧市街地で道路がせまい場所がある。

7 「市政運営」

特性

- 地域を取り巻く課題の多様化に対応するため、市民主体のまちづくりを支える市政運営が動き出している。

課題

- 生産年齢人口の減少に伴い、税収が2025年をピークに減少することが予測されている中で、安定した財源の確保が課題となっている。
- 市内公共施設の更新にかかる費用が、年平均で約10.3億円もかかることが予測されている。
- 効率的な市政運営のため、民間活力の導入が求められている。
- 市民アンケートでは、行政情報の発信に関する施策の進捗が進んでいないとの結果であった。

第3章 基本構想

1 将来像

本市は、名古屋市近郊の恵まれた立地を活かした良好な住環境の整備と同時に、「自然との調和」をまちづくりの方針と掲げ発展してきました。

今を生きる私たちは、この大事に育まれてきたまちを受け継ぎ、また次の世代へつないでいかなければなりません。しかし、約50年で急激に発展し、人口も7倍以上になり、人の入れ替わりも多い本市は、ともすると、地域のつながりも希薄で、愛着も薄いまちになりかねません。また、今後予想される大規模災害や、本市にも訪れる超高齢社会による認知症等の要介護者や孤立死の増加、社会保障費の増加、人口減少社会の到来による税収の減少等の課題への対応が求められます。

こうした状況には、行政だけでは太刀打ちできず、市民一人ひとりが地域に役割と居場所を持ち、関わり合い、お互いに助け合い支え合える「地域で共生するまち」にしていくことが重要となります。そうすることで、課題を解決できるだけでなく、地域につながりが生まれ、幸せを実感できるまちに近づいていきます。

また、幸せのカタチは人それぞれですが、先人達が残してくれた豊かな田園や里山の風景を守り、さらに緑を増やし、まち全体を緑あふれる潤いのある「自然と共生するまち」を次世代につないでいくことは、幸せが実感できるまちの要素の一つとなります。

「地域共生」、「自然との共生」等、「共生」は、一人の力では決して成り立たず、多世代が関わり混ざり合うことで成り立ちます。多くの人に関わると、意見が合わずもめたり、時間がかかったりして、うまくいかないこともあります。しかし、そうした過程が、市民の力、地域の力を育み、そこに「物語」が生まれます。

人と人、人と地域、人と自然、様々なものがつながり、「共生」することで、幸せが実感できるまちにし、いくつもの幸せな「物語」が、地域のいろいろなところで生まれることを目指し、将来像を下記のとおり掲げます。

幸せが実感できる 共生のまち 長久手

～そして、物語が生まれる～

2 基本目標

将来像を実現するため、7つの分野ごとの「2028年の本市が目指すまちの姿」を、「基本目標」として決めました。また、その姿がイメージできるようにするため、分野ごとに1つの事例を「ながくて未来の物語」として、まとめました。

さらに、基本目標を実現するための「取組の方向性」をまとめました。

分 野 人づくり

基本目標1 「やってみたい」でつながるまち

「自分たちの住むまちを、自分たちで良くしていこう」という意識を持った地域の担い手づくりや、地域での活動の場の整備や活用、さらに多くの市民が市民活動や地域活動に参加しやすい環境を整備することで、地域の人たちがつながり、地域を支える人が育つまちを目指します。

また、高齢者の役割と居場所の拡充や、想いを持った若者が活躍できる仕組みづくり、誰もが意欲に応じて活躍できる地域づくりを進め、市民一人ひとりの興味に応じた「やってみたい」ことを応援することにより、さらに人と人がつながるまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での2028年の理想の姿を描いた物語～

2028年。長久手に生まれ、長久手に育ち約21年が経った。長久手も随分発展したけど、私も長久手に随分「育ててもらった」と感じている。

小さいときから自分が住む「まち」に触れる機会は多かった。学校でも「まち」について学ぶことがあったし、「地域コミュニティ」という言葉は当時知らなかったけど、「自分たちの住むまちを、自分たちで良くしていこう」という意識を、なんとなく周りの大人達から感じていた。その影響もあってか、長久手には愛着があり、卒業後の「生き方」についても、ふるさと長久手のことを意識せざるを得ない。

私たちが生きる時代は、「人生100年時代」と言われているが、ここ長久手では、“働き直し・学び直し”ができる環境があり、いつでも、誰でも「やってみたい」がかなう仕組みが整っている。私の大学の先輩は、一度就職で長久手を出てから、また長久手で働き直している。長久手でそのようなことが起こる理由の一つは、“働き直し・学び直し”の拠点があるからだ。集会所や地域共生ステーション、以前は空き家だった交流スペース、大学等の市内の学び舎等が拠点となり、ここに、高齢者や障がいのある人、子ども、大学生、会社員、子育て中の夫婦、起業家、外国の人等、多様な人達が集まる場になっている。そこで、お互いの知っていることや得意なことを引

き出し合いながら、時には教え、時には教えられる「学びの循環」が起きており、人が育ち、つながりも生まれ、コミュニティも育っている。

卒業後も愛着ある長久手に暮らし、「やってみたい」ことにチャレンジしよう。

「ながくて未来の物語」を実現するための取組の方向性

政策1 地域共生を支える人づくり

- 概ね小学校区単位のまちづくり組織の設置・運営の支援や、地域活動・市民活動を行う人材の育成、ご近所での見守り活動等に取り組む市民の発掘をすることで、地域の担い手を増やしていきます。
- 地域の活動拠点となる地域共生ステーションの整備や、歩いて行ける身近な場所への交流できる場の設置に向けた検討をすることで、地域における活動の場を整備します。
- 市民参加をさらに促す仕組みづくりや、活動団体や市民同士のつながりを広げることで、市民活動や地域活動へ参加しやすい環境づくりに取り組みます。

政策2 「やってみたい」が実現できる仕組みづくり

- 様々な経験や知識を持つ高齢者がまちづくりに参画するための人材発掘や、高齢者の能力に応じた就労の機会を確保することで、高齢者の役割と居場所づくりに取り組みます。
- 市内4大学及び周辺大学と連携した取組の実施や活動拠点の整備、地域活動等に積極的な若者（子どもや学生）が様々なことにチャレンジできる仕組みづくりに取り組むことにより、想いを持った若者が活躍できる仕組みづくりに取り組みます。
- 生涯学習の推進、起業支援、男女共同参画の推進、多文化共生の推進等を行うことで、誰もが意欲に応じて活躍できる仕組みづくりに取り組みます。

<ながくて未来の物語 イメージイラスト>



基本目標2 子どもが元気に育つまち

安心して妊娠から出産・子育てができる環境の整備や支援体制を構築することや、子育てを通じたネットワークづくりを推進することにより、子育て世帯が孤立せず子育てができるまちを目指します。

また、保育環境や教育環境を整備することで、子どもたちが安心して学び、健やかに成長できるまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での2028年の理想の姿を描いた物語～

2028年。2歳と4歳と7歳。3人の子ども達と毎日楽しく暮らせている。

運動が得意な子、苦手な子、お話しするのが好きな子、苦手な子、本が読むのが好きな子、苦手な子、障がいがある子、ない子、それぞれが子ども達の大切な「個性」として受け入れられ、長久手の子ども達は、よく遊び、よく泣き、よく悩み、よく笑い、感性豊かに育つと友達から聞き、結婚を機に、長久手に引っ越してきたけど、その噂は本当だったみたい。

転出入の多いまちのせいか入ってくる人に対して地域の人が気にかけてくれるし、地域の行事に参加しているうちに、関係性が築けてきて、子育てを通じて自由な交流やつながりが生まれた。最初は、自分の子どもを人に預けることに抵抗があった私も、いざというときに、お互いに頼れるネットワークができた。地域の人と関わることに消極的だった私たち夫婦も、気付けばパパ友・ママ友ができ、情報交換や一緒に地域活動もしている。

働きながらの子育ては不安だったけど、家族の理解や支え合い、産み育てる環境が整っていたり、困った時にふらっと気軽に相談しにいける場や人がいたりするおかげで、何かあったときの心のよりどころになっているなあ。

親も地域の方もみんなが子どもたちを温かく見守り受け入れてくれていて「まち全体で子育てをしている」ような、そんな雰囲気に加え、保育園や小中学校等子どもが健やかに育つ環境も整っているから、のびのびとありのままで自由に生きられている。そして、そんなまちで暮らす大人達も、のびのびいきいきと暮らしていると感じる。

今日も外から子どもたちの元気な声が聞こえてくる。そんなまちってやっぱり素敵。

政策1 妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援

- 保健・保育・福祉・教育等の各機関が適切に連携し、切れ目のない支援を行うことで、どのような状況にある子どもたちにも支援が行き届くよう取り組みます。
- 産後57日目からの産休明け保育の実施や、産前・産後の相談体制や支援サービスの充実により、安心して出産するための環境の充実を図ります。
- 相談体制の整備や、妊娠・出産・子育て等に関する情報提供の充実を図ります。

政策2 子どもを通じて育て合い育ち合うまちづくり

- 保育園・児童館・学校が、それぞれ地域と一体となって子どもの成長を支える取組や、地域での子育ての悩み相談や情報交換、仲間づくりが行える機会の提供により、子育てを通じた地域ネットワークづくりに取り組みます。
- 3世代同居や近居を促進することで、身近な地域で子育てしやすい環境づくりに取り組みます。

政策3 子どもの健やかな成長を支える環境の整備

- 自ら考え、学ぶ教育の充実や、文化芸術活動や読書活動の推進、食育の充実により、子どもが主体的に学ぶ機会を創出します。
- 待機児童解消に向けた保育園の定員増加や、民間活力を活かした新たな保育施設（保育所、地域型保育事業）の整備、放課後の子どもたちの居場所づくり、学校施設の整備を行うことで、安心して子どもが過ごせる場を整備します。

〈ながくて未来の物語 イメージイラスト〉



基本目標3 みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物

里山や田畑の保全や活用、緑の創出、水辺環境の整備により、豊かな自然環境と共生し、今ある自然環境を、子どもたちへ、またその次の子どもたちへつないでいくまちを目指します。

また、二酸化炭素の削減や限りある資源の再利用により、地球に優しい持続可能な社会が構築されたまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での2028年の理想の姿を描いた物語～

2028年。長久手に暮らして40年。私が生まれ育った長久手は今でも豊かな自然に恵まれている。自宅があるまちの西の都市部には、公園や街路樹等至るところに“緑”があり季節を感じられる。まちの東では、田畑や里山があり、自然の雑木林の中では子どもたちが駆け回り、同じ市内にしながら自然を存分に感じられる。

私も参加しているが、香流川では、地域で清掃活動が行われとてもきれいだ。みんなこの川を愛し、カワセミやいろいろな生き物からも愛されている。中には田畑や自然を荒らしてしまう動物もいるけど、地域や行政で協力して対策をしながら、いろいろな生き物と共存している。

小さい頃は気付かなかったけど、こうして今でも、子ども達が雑木林を駆け回れたり、田んぼも里山も香流川も、美しく保たれたりしているのは、その時代時代に、この自然を愛し守る人たちがいて、それを受け継ぐ人がいるからなんだ。休耕田になっていたようなところも、「みんなで受け継ぐ」という意識から、地域で協力して管理したり、若い後継者につなぐことができてきているように感じる。

豊かな自然が保たれているからか、長久手の市民は、環境への意識が高く、次世代に少しでもいい環境を残そうとごみの減量化・資源化等の地球に優しい行動を心がけているように感じる。

私も、このまちの宝物である美しい自然や環境を守り、また次世代につないでいきたいと思っている。

今ある自然をほったらかしにするのではなく、「まちの宝物」として、人の手を入れながら、みんなで未来へ残していくという意識こそ、まちの宝物なのかもしれない。

政策1 万博理念を継承した自然との共生

- 里山を保全する制度の活用や、自然の中での遊びや学びの場の創出、二ノ池湿地群等の保全活動等により、豊かな自然環境の保全に取り組みます
- 市民参加による自然環境調査や、自然体験学習、自然環境情報の発信を行うことで、自然に愛着を持つ地域づくりに取り組みます。
- 公共の施設及び民間の敷地内の緑化を推進することにより、まちに緑を増やします。
- 香流川において緑と生物に触れ合える空間を創出することや、調整池の緑化により、水辺に親しめる環境を整備します。

政策2 農あるくらしの推進

- 農業が行いやすい環境の整備や、鳥獣被害防止対策、農業用施設の改修・修繕、地元農産物の積極的な活用等の、農の活性化に向けた支援を行います。
- 農に関わるあらゆる取組を応援する仕組みづくりや、新規就農の促進、法人の農業参入、農福連携を推進することにより、農の多様な担い手を育てます。

政策3 地球にやさしい持続可能な社会の構築

- 市の公共施設の再生可能エネルギーの導入や緑化推進、地球温暖化対策の推進に向けた取組の普及啓発、二酸化炭素の削減量の可視化等により、くらしの低炭素化に取り組みます。
- 資源回収拠点の充実等により、ごみの減量化・資源化を促進します。

〈ながくて未来の物語 イメージイラスト〉



基本目標 4 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち

助けが必要な方への支援や、市民の安全を守る防災・防犯・交通安全の取組により、誰もが安心して暮らすことができるまちを目指します。

また、健康づくりの取組を進めるとともに、支え合い、助け合いができる地域づくりを推進することにより、一人ひとりが地域で役割や居場所があり、誰もがいきいきと安心して暮らせるまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での 2028 年の理想の姿を描いた物語～

2028 年。退職してから、もう 5 年になるかな。もしかしたら、仕事をしていたときより、働いているかもしれない。今の職場は、「地域」だけだ。

働いているときは、家と職場の往復だけだった。たまたま自治会長になったのをきっかけに、いざ退職して地域デビューしてみると、地域には、実にさまざまな「役割」があると気づいた。なかなか地域に出られなかった自分が、今では、いろんな人の「地域デビュー」のきっかけづくりの「役割」を担ってるなんてことを 10 年前の自分に言っても、きっと信じてもらえないだろうな。

「役割」と言うと、長久手では、生活する上で、誰かが困っていることを、家族でできることは家族で、地域でできることは地域で、行政がやらなくてはならないことは行政で、とうまく役割分担をしながら、解決できていると感じる。

「地域のみんなでできることはみんなでやろうよ」という意識が根付いているからか、世代や住んでいる年数も関係なく、地域のつながりも強く、まちでよく見かけるのは、ご近所さん同士のあいさつやおしゃべりだ。

日頃から声をかけあっているからこそ、犯罪からみんなの生活を守れていて、災害の際は、当たり前に関わり合う。ご近所さん同士のおしゃべりは、情報交換にもなっていて、一人暮らしの高齢の人や、体が不自由な人等で、最近見かけない人がいれば、様子を見にいたり、行政と連携して支援も行っている。

高齢化は進んでいるが、介護予防もお互いに支え合いながらできているし、まずは自分たちで運動や健康づくりに取り組んでいるよ。何より、地域に「役割」があるからおちおち家で寝ていられない。だけど、おかげで私も友達もいつまでも元気でいきいきしている。「安心して暮らせるまち」に地域のつながりや役割が必要なんだな。

政策1 住み慣れた場所で安心して暮らすことができる地域づくり

- 支援が必要な高齢者、障がいのある人等への多様な主体による連携体制の構築と支援の充実により、くらしを支える生活基盤を充実させます。
- 災害に備えた自助・共助・公助の取組をそれぞれ推進することにより、地域全体の防災力の向上を図ります。
- 新たな交番の誘致、地域での防犯活動の支援等による防犯対策や、交通ルール遵守の啓発、道路環境整備等による交通安全対策を推進します。

政策2 地域の課題をみんなで解決

- 地域の課題を地域で解決する仕組みづくりや、ご近所同士の話し合いの場づくりの支援を行うことで、市民同士が助け合い、支え合える地域づくりを推進します。
- 分野を超えた課題に総合的に相談に応じる包括的な仕組みの充実や、身近な地域で相談できる場や機会の充実を図ります。

政策3 いくつになっても元気でいきいきと輝けるくらしの推進

- 若い世代からの健康的な生活習慣の習得の支援や、地域への保健師の派遣、運動による健康づくりの支援、大人の食に対する意識啓発等により、市民の健康づくりを推進します。
- 認知症の人とその家族にやさしい環境づくりや、日常生活に支障のある一人暮らし高齢者への給食の宅配により、介護予防を推進します。
- 健康スポーツ拠点の整備や市内の健康づくりに関連のある施設との連携等により、市民の健康づくりを推進します。

〈ながくて未来の物語 イメージイラスト〉



基本目標5 いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪

歴史や文化、芸術、スポーツを活用した市民同士の交流の輪が広がっていくまちを目指します。

また、リニモテラスやジブリパークといった今後開設予定の資源や多くの既存の資源を活用し、観光をまちづくりの一つと捉え、市内外の人と人との触れ合い・つながりをつくっていくという視点を持った「観光交流」スタイルの確立や、積極的な情報発信により、魅力がさらに広がるまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での 2028 年の理想の姿を描いた物語～

2028 年。「やあ、おはよう！」私が登校するときは、いつもいろんな人が声をかけてくれる。小さいときから、さくらまつりや夏まつり、伝統的な警固祭り等、いろんなイベントに参加する機会があったので、仲の良い大人の人もたくさんいる。

今は中学生になって、毎週のように出かけている！先週は、友達と古戦場公園に行った後、私が生まれるずっとずっと前からあるお家に遊びに行き、長久手の歴史に詳しいおじいちゃんに昔の長久手のことをいろいろ聞いたよ。ここは古民家って言うらしいけど、「みんなの家」みたいに、いろいろな世代の人でいつもたくさんいるよ。ここの古民家をきれいにする作業も、地域の人たちが協力してやったっておじいちゃんが言ってた。

今週は、リニモテラスに行くよ。ここには大学生のお兄さんやお姉さんがいつも集まって話し合いをされていて、私が行くと仲間に入れてくれるから大人のお友達が増えたよ。今度、リニモテラスでやるイベントに、お手伝いで参加するのが楽しみ！

来週は、文化の家で、本物の芸術家に絵を教えてもらえる。毎週のように楽しいことがあるから、「今日はどこに参加しようかな」「誰を誘おうかな」って迷ってしまうほど。

長久手でやっているイベントやまちのオススメ情報もたくさん発信されていて、長久手に住んでいる人も住んでいない人もそれを見て情報を集めているみたい。実際に行った人が SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で発信していて、長久手の魅力がどんどん広がっていて、長久手に住んでいない人も住んでいる人もみんな楽しく交流できている気がする。長久手のことを知れば知るほど好きになるし、私ももっとたくさんの人に長久手のことを教えてあげたい！

中学からは部活を始めたから、運動もたくさんするけど、まちのいたるところで、小さい子からおじいちゃんまでみんなでスポーツをしているから、私もやる気がする。

こうやって、気が向いたらいつでも、どこに行きたって、そこにいる誰かと、遊んだり運動したり、交流の輪がどんどん広がって、幸せ！

政策1 まちの資源を活かした市民同士の交流の促進

- 古戦場公園の再整備や古民家の保存、古窯の保存活用、棒の手や警固祭り等の文化財の保護、郷土史等の図書資料の収集・保存により、まちの歴史を次世代に継承していきます。
- 文化芸術を福祉、教育等様々な分野のまちづくりに活かす取組や、芸術を身近に感じられるアートのまちづくり、様々なジャンルや形態の文化芸術を体験できる文化環境の充実等に取り組めます。
- 健康スポーツ拠点等の施設整備や、子どもから高齢者までスポーツに気軽に親しめる機会を創出することにより、スポーツを楽しむ環境を整備します。

政策2 観光交流まちづくりの推進

- リリモテラスにおけるつながり・賑わいの創出、ジブリパーク開業を契機とした観光交流の推進、長久手らしさや地域の魅力を活かした観光地域づくりを推進することにより、本地独自の観光交流スタイルを確立します。
- 観光交流情報を効果的に発信し、まちの魅力を広げます。

〈ながくて未来の物語 イメージイラスト〉



基本目標6 あえて歩いてみたくなるまち

公共交通の利便性向上や安心して移動できる道路の整備により、外出しやすいまちを目指します。

また、都市基盤施設の適切な整備や、まちで緑を感じ、四季を感じることができ、徒歩や自転車で安心して楽しく移動できる景観の形成により、「今日はあえて、歩いてみよう」と思ってもらえるまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での2028年の理想の姿を描いた物語～

2028年。私たち夫婦も高齢者になり、ちょっと運転に自信がなくなって、運転免許を返納してしまったんだけど、それでも長久手は住みよいまちだよ。

リニモやN-バス等の公共交通やそれ以外の移動手段も整備されていて移動しやすいから、買い物や通院には困らないし、公共施設にもストレスなく行けてとても便利。大きな荷物を運ぶ時とかには、いつも気にしてくれているご近所さんが出かけるついでに車で送ってくれたりして助け合っている。

便利であると同時に、長久手では、自然も大切にされていて、住宅地といいバランスで共存している。市内の住宅地には、庭の手入れをする人が増えて、あちこちで会話の花が咲いているなあ。まちの至る所に緑があるし、ちょっと歩けば道に花が咲いていたり、遊歩道もある。自然を感じながらまちを歩くのは楽しいし、健康にも良い。隣の家族も週末になるとお子さんと一緒に自転車で出かけていて楽しそう。私の友人は車に乗っているけど、公共交通を利用したり、歩きや自転車で移動したりという意識が根付いているからか、何年か前に比べて渋滞も少なくなって快適だし安心！って言ってたな。

このまちは誰にとっても、「安心して」、かつ「楽しく」外に出るための整備が進んでいる。

楽しいことがあると思うと、ついつい外に出かけたくなる。そういった人が多いから、このまちはにぎやかで、活気づいているのね！

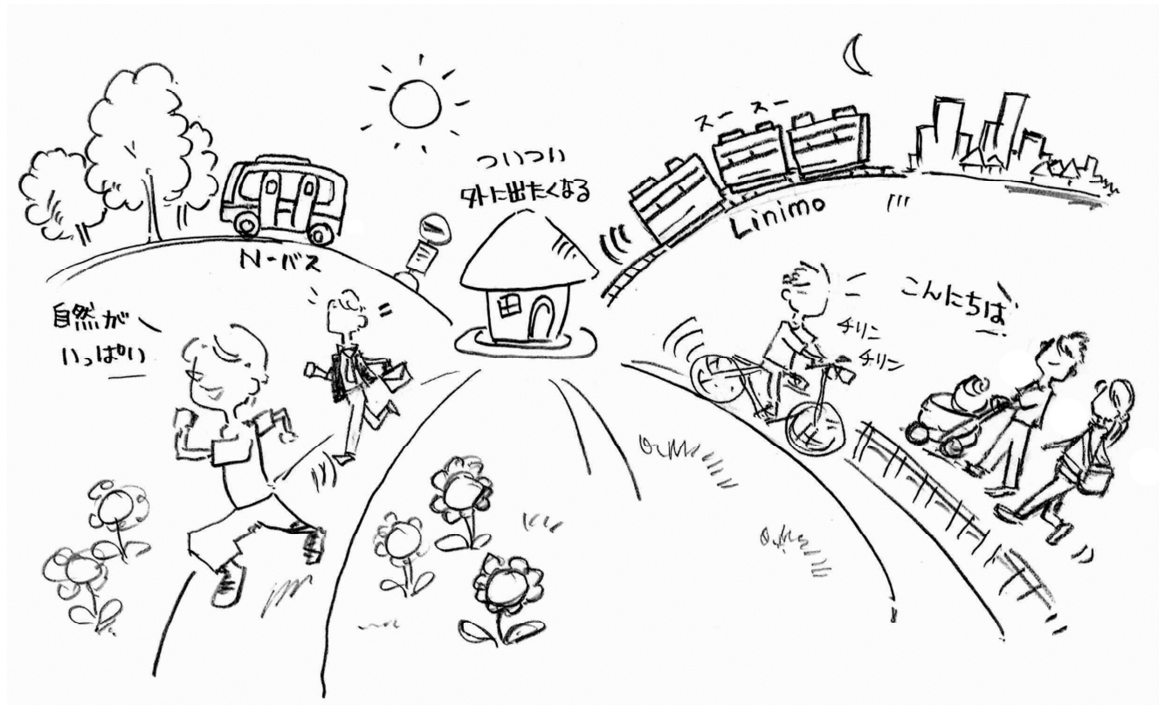
政策1 外出しやすい環境の整備

- 今後の高齢化に対応した公共交通サービスの提供や、公共交通ネットワークの構築、コミュニティバスの効率的な運行により、公共交通の利便性の向上に取り組めます。
- 歩道や生活道路の整備の充実や、渋滞対策のための県道・市道のバイパス道路の整備、狭隘道路の拡幅整備等により、外出しやすい環境の整備に取り組めます。

政策2 暮らして心地よい生活環境の形成

- 長久手中央地区及び公園西駅周辺地区において、土地区画整理事業によりリニモ沿線の市街地を整備します。
- 市庁舎の建て替えや、公園・緑地の整備、老朽化した都市基盤施設等の長寿命化に取り組めます。
- 魅力ある景観の形成や、楽しく暮らすことのできる環境の整備、空き家への対応への検討により、良好な住環境を形成します。

〈ながくて未来の物語 イメージイラスト〉



基本目標 7 市民から信頼される市政の運営

将来の税収減を見据えた計画的な財政運営や公共施設の管理、他自治体や民間事業者との連携、行政情報の適切な管理と活用により、効果的かつ効率的な市政運営を目指します。

また、これからの超高齢・人口減少社会に対応するには、市民の方にもまちづくりの一員として役割を担っていただく必要があるため、職員が地域に出掛け、地域を深く知ったり、市民同士をつなげる役割を担ったりすることにより、市民主体の取組を支える市政運営を目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での 2028 年の理想の姿を描いた物語～

2028 年。今、私の勤める長久手市役所では、「まち全体が職場だ！」という意識が職員に根付いている。

いろいろな課の職員が、時間をつくって、意識的にまちに出てみたり、公共施設を回ったりしている。「〇〇さ～ん！」と、まちで呼び止められることが多くなったね、とよく同僚とも話している。市役所に用事があった際に、気軽に声をかけてもらえるようになり、市民と「顔の見える関係性」が築けてきている。こうしてまちに出たり、市民の方と話をする中で、課題も、その解決の糸口も見つかるのだな、と気がついた。

確かに、長久手市では、税収の頭打ち感や高齢化による財政支出の増加等はあるけど、それを見越した財政運営をしてきたし、他の市町や民間企業とも連携しながら効率的な市政運営ができている。

さらに、職員だけでは解決が難しい課題や地域特有の課題については、市民が役割を持って担ってくれている。こうした頼もしい市民がいることもあり、職員は、「このまちをもっとよくしたい！」と積極的に業務を見直し改善に努めたり、もっといい職員になりたいと研修にも視察にも積極的に行くようになった。

「元気な職員がいるまちは元気になる！」そう信じて、今日も長久手の市民のために、頑張ろう！

政策1 効果的かつ効率的な市政運営

- 将来の税収減を見据えた財政の健全化を図ります。また、安定した財源の確保に努めます。
- 他自治体等との連携や民間事業者の活力導入を推進します。
- 地理情報システムや情報通信技術（ICT）の活用、各種メディアを活用した情報発信を行うことにより市民サービスの向上を図ります。

政策2 柔軟な市政に向けた仕組みづくり

- 市民自らが地域の課題を解決することを支援し、市民同士をつなげる能力の持つ職員の育成や、複数の分野にまたがる課題に対して分野横断的に取り組むことにより、市民ニーズに適切に対応します。また、概ね小学校区単位で市民サービスを楽しむ仕組みについて、検討します。

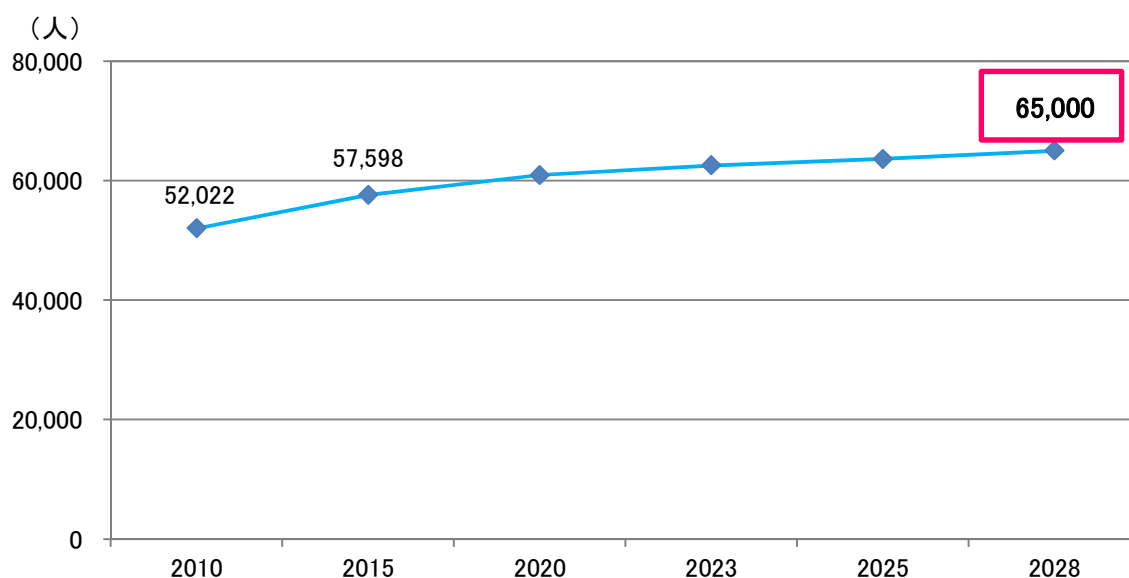
<ながくて未来の物語 イメージイラスト>



3 人口フレーム

全国的に人口減少が進む中、本市においては当面の間は、人口増加が進むことが予測されますが、それでも 2035 年頃をピークに人口減少に転じていきます。今後、来る人口減少社会に備えるため、将来像である「幸せが実感できる 共生のまち 長久手」の実現を目指し、市民主体のまちづくりの取組を進めていきます。

これらの取組を推進することで、2028 年における人口を 65,000 人と設定します。



【図 17 人口フレーム】

4 土地利用構想

本市の土地は、現在及び将来における市と市民の限られた貴重な資源であるとともに、市民の生活と生産活動を支える共通の基盤です。そのため、以下に示す基本理念に基づいて総合的かつ計画的な土地利用を図ります。

基本理念

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ■ 公共の福祉の優先 | ■ 自然環境の保全・活用、緑の創出 |
| ■ 持続可能な都市づくりの推進 | ■ 健康で質の高い生活環境の確保 |
| ■ 安全な暮らしの確保 | ■ 文化的な市民生活の創造 |

土地利用の基本方針

■ 本市の魅力である自然環境の保全・活用、緑の創出

- 東部丘陵をはじめとする森林を積極的に保全、市民が楽しさを発見できる里山として活用
- 河川の植栽整備等による緑の創出
- 農地の積極的、政策的な保全、活用による、市民をはじめ多くの人が自然に触れあえる場となるような土地利用
- 既成市街地においては、公園や道路等の公共空間の緑化推進

■ リニモを中心としたまちづくりを推進する土地利用の展開

- 新たな市街地の拡大は行わないことを基本としつつ、当面の人口増加に対応するリニモ長久手古戦場駅やリニモ公園西駅周辺における事業の継続
- ※ 長久手中央地区北側周辺部については、人口動向を踏まえ、適切な土地利用の展開を図ります。

■ 都市機能が集積する複合的な拠点形成に資する土地利用の展開

- 市役所周辺において、老朽化した市庁舎を建て替えることにより、防災拠点としての機能を充実させるとともに、高齢者をはじめ多様な世代が健康に暮らすため健康づくりセンターの機能を備えた総合体育館を整備することで、都市機能が集積する複合拠点の形成に向けた土地利用を展開

■ 住み続けられる持続可能な土地利用の展開

- 日常生活圏においては、増加が見込まれる高齢者をはじめ多様な世代が歩いて暮らせる環境を整備
- 急傾斜地崩壊危険箇所等の災害発生が懸念される地域では、安全に配慮した適切な土地利用を展開

■ 歴史的資源の景観保全に向けた施策の検討

- 市内には、長久手古戦場、御旗山及び色金山等の国指定史跡が分布しており、これら歴史的資源が相互に眺望できる景観の保全に向けた施策の検討

